

FUKUOKA UNIVERSITY FACULTY GUIDEBOOK

商学部

Faculty of Commerce

- 商学科
- 経営学科
- 貿易学科

- 商学部第二部 商学科「夜間部」
- 会計専門職プログラム



FUKUOKA UNIVERSITY

福岡大学

福岡大学
学部ガイド2027



商学部
ウェブサイト



キャンパス
マップ

入学センター

〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号
TEL: 092-871-6631 (代)



Glocal

[Global+Local]

世界の注目都市・福岡で
商学の理論と応用実学を
バランスよく学ぶ。

※本冊子に掲載している人物の情報は、2025年度取材時のものです。



学部長メッセージ

商都・福岡でビジネスを 理論と実践の両面から学ぶ



商学部長 長束 航 NAGATSUKA Wataru

福岡大学の所在地である福岡市は、古くから商業都市として発達してきたまちです。現在では、わが国の中でも有数の元気なまちとして知られ、住みたいまち、働きたいまちとして取り上げられることも多いです。アジアのリーダー都市を目指し、企業の誘致やスタートアップ(起業)支援も積極的に行われています。このような環境で、ビジネスを理論と実践の両面から学ぶことができるのが福岡大学商学部(商学部第二部を含む)の最大の魅力です。

本学部では、少人数で行われるゼミナールを最重要視した教育を行っています。これは、ビジネスの専門知識や理論はもとより、高度なプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身に付けたビジネス・パーソンを育成することで、地域社会のニーズに合致する人材を輩出しようとしているからです。

また、本学部では、「会計専門職プログラム」「クリエイティブ・マネジメント・プログラム」「高校商業・情報科教員

育成プログラム」「マーケティングプログラム」など、革新的な教育プログラムを多数提供しています。高度に発達したビジネス社会においては、特定分野の高い能力を持った人材を育成することが必要であり、これらのプログラムはそのニーズに応えようとするものです。

このように、福岡大学商学部における学びは「地域社会のニーズに応える」という側面がありますが、一方で、「地域社会を活用する」という側面も忘れてはなりません。周辺環境には、研究対象とするべき生きた素材としてのビジネスが多数存在しています。講義やゼミナールの中には、地域の企業を扱ったり企業とのコラボレーションを行ったりする実践的なものも多く、本学部の魅力をより一層高めています。

元気なまちにある元気な大学の中の元気な学部、福岡大学商学部で、充実した学生生活をぜひ一緒に過ごしましょう。

目次

学部長メッセージ	01	第二部主事メッセージ	19	教育プログラム	27
商学部 商学科	02	商学部第二部 商学科	20	— 高校商業・情報科教員育成プログラム	28
— 商学科を理解する5つのポイント	04	— 第二部商学科を理解する5つのポイント	22	— クリエイティブ・マネジメント・プログラム	30
— 教員の紹介	06	— 社会人コース履修制度	23	— マーケティングプログラム	32
商学部 経営学科	08	会計専門職プログラム	24	— 海外交流ゼミナール	34
— 経営学科を理解する5つのポイント	10	— 会計専門職プログラムを理解する5つのポイント	26	商学部Q&A	35
— 教員の紹介	12				
商学部 貿易学科	14				
— 貿易学科を理解する5つのポイント	16				
— 教員の紹介	18				

三つのポリシー

- アドミッション・ポリシー (AP) (入学受け入れの方針)
- カリキュラム・ポリシー (CP) (教育課程編成・実施の方針)
- ディプロマ・ポリシー (DP) (学位授与の方針)





ゼミを核とした多様な科目群。地域経済からグローバル社会まであらゆるステージで活躍できるビジネスリーダーを育成。

「商学」とは市場を中心に、消費者・企業・行政などが複雑に関係し合う現実のビジネスについて、そのメカニズムを解明しようとする学問です。

このため本学科では学びに3領域6分野を設定しています。

学生個々の目標に応じて専門的に、あるいは総合的に、1年次から4年間にわたるゼミでの学びや活動を通じてビジネスリーダーに不可欠な「観察・構想・実践」の能力を習得します。

地域経済の活性化からグローバル市場の開拓に至るまで、あらゆる場面で活躍できる人材を育てます。

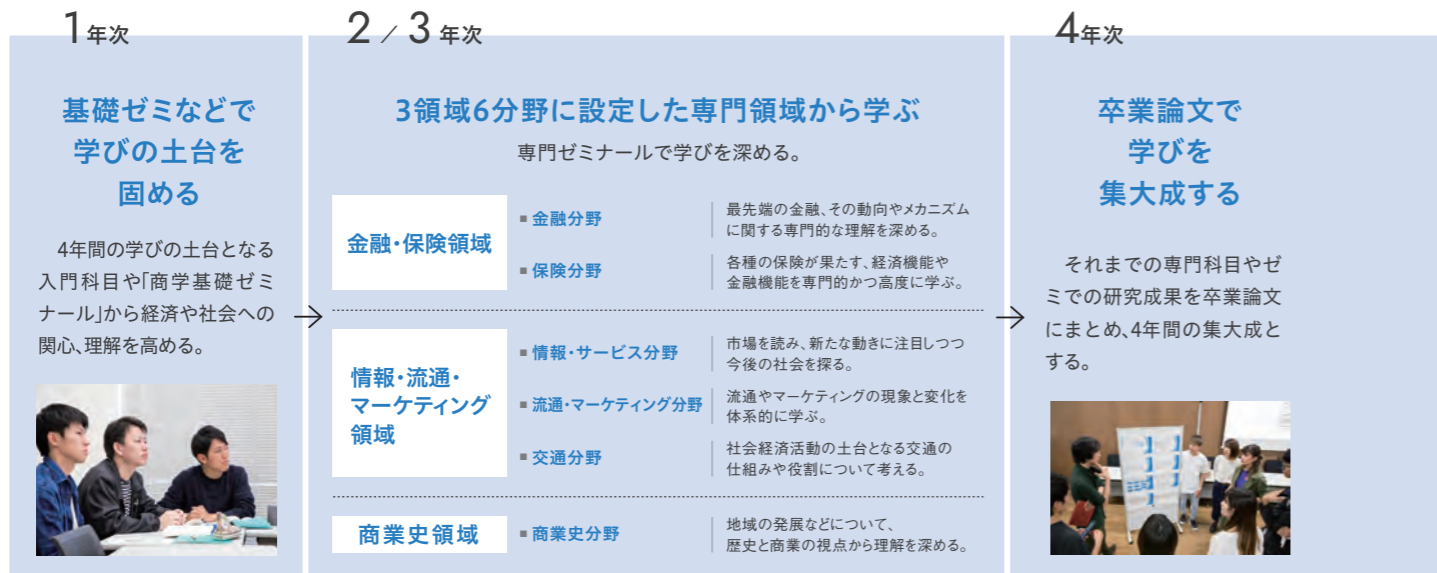
求める人材像(求める能力)

- A 知識・理解** 高等学校の教育内容を幅広く学習しており、それらを社会や地域との関係を軸に考え解釈することに興味がある人
- B 技能** 自分の興味・関心を起点に情報や他者の意見を集め、それらを素材に論理的に考え自分の意見を表現することができる人
- C 態度・志向性** 社会の一員であることに自覚的で、社会や地域に貢献したいと思う使命感を持った人
- D その他の能力・資質** 自己研鑽により、英語をはじめ各種の資格・検定試験に合格した人

求める人材像(求める能力)の詳細は



商学科での4年間



取得可能な主な資格

- ☑ 高等学校教諭一種免許
- ☑ 中小企業診断士
- ☑ 税理士
- ☑ 公認会計士
- ☑ 簿記検定
- ☑ 情報処理
- ☑ ファイナンシャルプランナー
- ☑ 証券アナリスト など

在学生の声

地域再生プロジェクトでマルシェ出店。 リアルな現場で、商学の知識が「経験」に変わった。



3年次生 大谷 徳将 さん
(広島県 広島商業高校出身)

流通や金融などビジネスに関わる幅広い分野を学ぶことができます。所属したゼミでは、佐賀県呼子での地域再生プロジェクトに参加し、フードマルシェの出店に取り組みました。授業を通して、地域のニーズを十分に理解するには、地元の方々との関係づくりが大切だと学んでいたため、自ら積極的に声を掛け、話を聞くことを意識しました。その結果、マルシェを成功させることができました。率先して動くことで周囲を巻き込み、結果が変わることを実感した経験でした。

学科の学びで特に好きな授業は「交通経済論」です。鉄道運賃と利用者数の関係など身近な例を用いて、交通システムとまちづくりを経済の視点から学ぶことで、学びが社会と直結していることを強く感じました。企業の方から現場の話聞く機会もあり、インフラやまちづくりに関わる仕事への理解が深まりました。本授業をきっかけに、建設や住宅業界に関心を持ち、将来の進路を具体的に考えることができるようになりました。

私の時間割(3年次後期)

	月	火	水	木	金
9:00					証券と金融
10:40				哲学B	流通システム論
13:00	交通経済論	情報倫理	地域商業論	3年専門ゼミナールII	宗教学B
14:40					特別講義E(観光経済事情)
16:20					

卒業生の声

マーケティングのゼミで身に付けた 傾聴力・提案力が営業職で生きている。

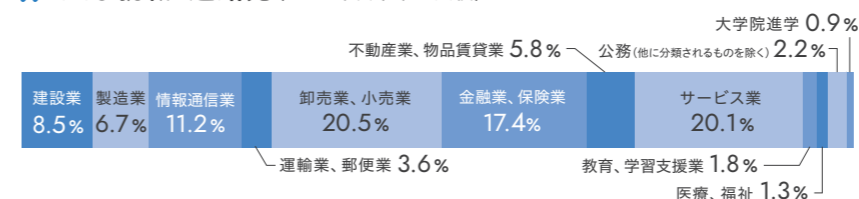
本学科では、金融、保険、情報、マーケティング、交通、商業史といった商学全般を総合的に学べる他、約2年半にわたるゼミで関心のある領域を専門的に深めることができます。また、簿記など目標に応じた資格取得も目指せます。私はマーケティングを研究するゼミに所属し、課題のプロジェクトを進める中でOB・OGへヒアリングする機会がありました。その経験のおかげで、相手の声に耳を傾ける大切さに気づき、まずは相手の立場や背景を十分に理解する姿勢を持つようになりました。

この気づきは、地図制作を行う会社で営業職として働く現在にも生かされており、お客様の悩みや困事を聞き取り、最適な提案を行うために重要なスキルとなります。また、学科の授業では、データ解析やリサーチ手法などの知識に加え、人との関わり方や向き合い方についても学びます。信頼される社会人としての基盤を築く上で、大学での学びが非常に役立っています。



澤野 航 さん(2024年卒業)
株式会社ゼンリン

主な就職・進路先(2025年度卒業生実績)



●商学部の主な就職先は36ページ●

商学科を理解する5つのポイント

01

人・モノの流れをつかむ

「交通」では「人やモノをいかに効率的に移動させるか」という課題について、経済学などを通じてアプローチします。市場の動向やビジネスの仕組みを「人やモノの流れ」を通じて捉える能力を養います。

関連する主な科目

- 交通経済論
交通渋滞や公共交通の存続問題など交通システムが直面する課題をいかに克服するかについて、経済学を通じて学びます。
- 交通政策
交通・物流・情報における容量の不足・高コスト現象に最新理論の光をあてて分析します。



市場動向の情報を精査し読み解く能力を養う

「情報・サービス」では、市場の仕組みから市場調査によって得られるデータの処理に至るまで最新の機器を用いて学習します。インターネットやデジタルトランスフォーメーション等がもたらした高度情報社会で収集されるデータを精査し適切に読み解く能力を養います。

関連する主な科目

- 市場分析論
商業・経済データがどのように関連して動いているのか、それらのつながりを学びます。
- 情報産業論
情報の観点から技術と産業を学び、さらには市場における消費者を読み解きます。
- 情報社会学
現代の情報社会の成り立ちと、デジタルトランスフォーメーションについて学びます。
- 情報処理入門・情報処理基礎
データ処理とデータ分析について機器を用いて実習します。



02

高感度な“マーケット・レーダー”を身に付ける

「流通・マーケティング」では市場の動向や仕組み、その変化に対してアプローチします。市場を観察して動向を捉え、次を予測するための高感度な“マーケット・レーダー”を身に付けます。

関連する主な科目

- マーケティングリサーチ
データを取得・解析し、仮説検証を通じて科学的なマーケティング戦略の評価・立案を学びます。
- マーケティングデータ解析
ビッグデータの分析を通じてインターネット上の顧客行動を可視化させ、顧客へのアプローチを学びます。
- マーケティング戦略論
今まさにパラダイムシフトが起こっています。この科目では市場をみとときのあなたのメンタルモデルとメガネをチェックし、新しいものへ取り換える思考実験を学びます。



05

企業の発展を正しくとらえる歴史観と戦略的思考力を培う

「歴史」(商業史)では江戸期に発祥、今なお隆盛の老舗・大企業の発展史などにアプローチします。過去から現代を見直し、企業の発展を正しく論じるための歴史観を養うと同時に、次代のビジネスを開くための戦略的思考力も養います。

関連する主な科目

- 商業史入門
商業関係のしくみの起源を探るとともに、商業史・経済史研究の動向をたどります。
- 近代日本商業史
幕末開港期・明治以降の日本がたどった商業の展開を学んでいきます。
- 商業史概論
現代の経済に対する理解を深めるために、歴史を見る眼を養うことを目指します。
- 近代西洋商業史
ヨーロッパ世界の拡大とそれに続く資本主義経済の展開を学んでいきます。



03

事業を進めるために不可欠な資金の流れなどを理解する

「金融・保険」では金融や保険の仕組みはもとより、企業における資金調達と運用やリスクマネジメントについてなど、事業を進めるために不可欠な知識を修得します。資金の流れから市場動向を正確に捉えるといった能力も身に付けます。

関連する主な科目

- 金融論
銀行と証券を二つの柱にして、実態と金融の両面から日本経済を学びます。
- 生活保障論
私的保障としての生命保険に焦点を当て、生命保険や社会保障について学びます。
- 保険論
個人や企業が「リスク」に対応するための有力な手段である保険について学びます。
- リスクマネジメント論
主に企業におけるリスクマネジメントの体系的な考え方について基礎から学びます。



TOPICS

学科の取り組み

WEBのアクセス解析やビッグデータ解析もやります

「マーケティングデータ解析」という講義では、Google Analyticsを使ってECサイトのアクセスログを分析したり、数千行・数百列という単位の実際の首都圏の消費者データを分析したりします。講義をやる前は難しそう!と思いますが、いざやってみるとできるもので、楽しそうに分析結果をプレゼンしています。なんでもネットを介し、データが溢れてその分析ニーズが高まっている時代ですが、時代に求められる具体的な分析スキルを身に付けられます。



ロゴの違いによる売上差を調べた学生のスライド

教員の紹介

※2026年4月1日現在

流通・マーケティング



笹川 洋平 教授

担当科目

「地域商業論」「流通政策」

地域社会と商業、商店街の関係の変化をたどりながら、商業、街づくり、流通政策の三つの視角を持って、望ましい地域社会と商業の関係とはどうあるべきで、そのために求められる資源とは何か、これからの課題について考えます。



杉本 宏幸 教授

担当科目

「流通・マーケティング入門」「マーケティングリサーチ」

普段お店に並んでいる商品はどう流通し、どう作られたのか考えてみたことはあるでしょうか。「流通・マーケティング入門」では、初めて流通やマーケティングを学ぶ人を対象に身の回りを観察しながら学んでもらいます。データを使って意思決定し、アクションをとることがいままや当たり前になりつつあります。マーケティングに関わって立案した新製品・企画を精度高く実現するために「マーケティングリサーチ」は力を発揮します。



太宰 潮 教授

担当科目

「消費者行動論」「マーケティングデータ解析」

消費者行動論では、人間の原理や根本的な特性などを押さえながら、それがどうマーケティングに生かせるかを学びます。学生さんのアルバイトにもすぐに生かせるような知識を提供します。マーケティングデータ解析では、現代に欠かせないWEBサイトのアクセスログの分析と、数千行&数百列という、少し大きいデータの分析を行います。



明神 実枝 教授

担当科目

「流通システム論」

スーパーやコンビニ、オンラインストアなどの小売業態はなぜ、どのように誕生し、存続し得ているのでしょうか。その背後には壮大な仕組みがあり、買い物がいよ楽しく便利になるよう工夫する経営者がいます。近年では、リサイクルのブランド化や資源循環システムも組み込まれ始めています。本授業では、それらの仕組みや工夫を学びます。



村上 剛人 教授

担当科目

「マーケティング戦略論」「マーケティング論」

インターネットの普及に伴い、企業と消費者の関係、さらには消費者同士のコミュニケーションのあり方が大きく変化の中で、これまでの企業が採用してきた商品やサービスを販売するマーケティングのやり方が通用しなくなり、まさに考え方を大きく変化させるパラダイムシフトが発生しています。これから消費者と企業がいかに共創していくのか、その考え方ややり方を明らかにしていく内容を考えていきます。



六嶋 俊太 講師

担当科目

「サービス・マーケティング」

商品が売れ続ける仕組みを考える「マーケティング」という言葉が日常的に使われる世の中になりました。マーケティングの知識は、車やパソコンなどの「手で触られる商品」には非常に有用な枠組みです。しかしながら、商学部生の8割以上が就職する第三次産業(小売、金融、輸送、観光、教育など)の商品に適用する際には、追加で考えなければいけないことがあります。本講義では「足の上に落とせない商品」のマーケティングを学びます。



情報



弘津 真澄 教授

担当科目

「情報産業論」「情報処理入門」「情報処理基礎」

「情報産業論」では、色も形もない情報を正確に捉え、情報を生み出す部品を自在に操り、流通や経営の中で起こっている現象を容易に説明したり、より効果的に情報を生み出したる方法を、授業を通して一緒に考えていこうと思っています。

「情報処理入門・基礎」では、情報技術のハード・ソフト・ネットワークについて実習を交えながら授業をしています。使えるではなく、作れるようになることを目標にしています。

金融



中塚 晴雄 准教授

担当科目

「金融論」「金融政策論」

お金から見る経済学です。景気と銀行と株式と企業と理論が範囲になります。分かりやすい、親しみやすい、手に取りやすい、授業を心掛けています。



新田町 尚人 准教授

担当科目

「銀行論」「金融システム論」

銀行を含めたお金の受け払いや貸し借りをを行う仕組みは金融システムと呼ばれています。銀行は預金を集め、企業に貸し出す重要な役割がありますが、近年は貸出以外で利益を上げようとしています。また、インターネットによって海外や個人間の送金が低価格で行えるようになりました。このように大きな変革期を迎えている銀行や金融システムの現状と課題を学び、今後どのような役割を果たせば良いのかを一緒に考えましょう。



田中 義孝 講師

担当科目

「証券と金融」「証券市場論」

「証券と金融」では金融という視点から企業の活動を説明していきます。企業が活動する中で必要な資金をどのような形で集めるのか、資金の集め方にはどのようなリスクや特徴があるかなどについて学びます。「証券市場論」では株式に代表される証券が取引されている仕組みや、証券価格の決めり方や分散投資の意義など証券投資の基礎的な知識について学んでいきます。

保険



植村 信保 教授

担当科目

「保険論」「リスクマネジメント論」

リスクマネジメントや保険の考え方は、皆さんが将来何に取り組むにしても、有力な武器になります。実務家としての経験を生かしつつ、リスクを正しく理解し、個人や企業がリスクとどう向き合うかを学ぶ授業を行います。



伊藤 豪 准教授

担当科目

「保険論入門」「保険論」「生活保障論」

「保険論入門」では「危険とは何か?」「保険とは何か?」「保険とはどんな仕組みで成り立っているのか?」などの基礎理論を説明し、「保険論」では保険事業や保険政策について学び、現代的課題について考えていきます。「生活保障論」では保険や年金によってどのように生活設計をし、生活保障を達成していくのかを考えていきます。さらに公的保障と私的保障の諸問題についても学んでいきます。

交通



鈴木 裕介 教授

担当科目

「交通経済論」「交通経済入門」

交通システムとまちづくりには密接な関係があります。交通事業者はどのような経営戦略をとっているのか、そして私たちのまちづくりとどのような関わりがあるのかなど、経済学や経営学の視点から、交通システムのあり方や都市政策について分析していきます。



朝日 亮太 准教授

担当科目

「海運と航空」「サプライチェーンマネジメント」

船舶や航空機は、人や物を国内外へ輸送する上で欠かせない重要な輸送手段です。国際情勢の急速な変化は、これらの輸送機関に大きな影響を与え、輸送コストの上昇などを通じて、私たちの生活や企業活動に深刻な影響を及ぼしています。講義では、こうした状況に直面する船会社や航空会社の経営とその課題、ならびに船舶や航空機をはじめとする輸送機関を利用する企業の戦略、そして、これらに関する政策について考察していきます。

商業史



藤田 裕邦 准教授

担当科目

「西洋商業史」「近代西洋商業史」

西洋商業史、近代西洋商業史では、西洋の商業・経済・社会の歴史を見ていきます。西洋の中核となるヨーロッパがまとまった一つの地域として成立するのは中世に入ってからのことなので、西洋商業史では中世を扱います。中世の社会構造である領主制と共同体が解体するのとほぼ同時期にヨーロッパ人の活動は地球規模に拡大し、ヨーロッパ社会も変貌を遂げていきます。近代西洋商業史では、それ以降の近世・近代を扱います。



本村 希代 准教授

担当科目

「日本商業史」「近代日本商業史」

日本商業史では古代から江戸時代まで、近代日本商業史では明治から現代までの、日本の商業の歴史を取り上げます。過去を振り返り、今につながるストーリーを読み解いていくと、現代社会の在り方が見えてきます。日本には100年以上続く、長寿企業が数多く存在します。このような老舗の経営から、その永続要因を探ってみるのも、歴史の面白さと言えます。

経営学科

Department of Business Management



目標は「会計がわかる経営人」「経営がわかる会計人」。 高度な専門知識と思考力を身に付ける。

経営学科では「企業を「ヒト・モノ・カネ」および「情報」の集合体である」ととらえ、それらを経営と会計の2分野からアプローチしてトータルに学修していきます。

そして高度な専門知識と思考力、その2つを駆使して問題を解決していく能力、およびマネジメントリーダーに不可欠な豊かな人間性を身に付けていきます。

その目標には「会計がわかる経営人」あるいは「経営がわかる会計人」の2つの分野があります。

プロフェッショナルな経営者や起業家、公認会計士や税理士などの専門職を目指した、「目的意識」のある学びに取り組むことができます。

求める人材像(求める能力)

- A 知識・理解** 高等学校の教育内容を幅広く学習しており、社会・経済事象に強い関心をもっている人
- B 技能** 学習や課外活動での経験によって、他者とのコミュニケーションがとれる人
- C 態度・志向性** マネジメントリーダーまたは職業会計人となる気概をもち、他者と協働して社会に貢献したいと考えている人
- D その他の能力・資質** 自己研鑽により、英語をはじめ各種の資格・検定試験に合格した人

求める人材像
(求める能力)
の詳細は



経営学科での4年間 起業家(アントレプレナー)への夢もバックアップ

1年次

経営と会計の基礎を学修

経営と会計、両分野の基礎学修から今後の学びの土台を構築。「経営基礎ゼミナール」で知覚する興味・関心を2年次の専門選択につなげる。

2/3年次

専門を選びゼミに取り組む

1年次の学びをベースに「経営」または「会計」の専門を選び、ゼミで研究や実践に取り組む。

経営

経営活動の仕組みを学び、マネジメントのプロを育成。

会計

企業の制度・理論を学び、会計のエキスパートを養成。

4年次

卒業論文で学びを集大成する

それまでのゼミでの研究や実践行動から得られた知見を卒業論文にまとめ、4年間の集大成とする。

専門教育科目
カリキュラム



学科
公式ウェブサイト



取得可能な主な資格

- 高等学校教諭一種免許
- 中小企業診断士
- 税理士
- 公認会計士
- 簿記検定
- 基本情報技術者
- ファイナンシャル・プランナー
- 証券アナリスト など

在学生の声



3年次生 小宮 彩蒼 さん
(福岡県 筑業女学園高校出身)

マルシェ出店が夢実現への一歩に。
失敗を恐れない思考と行動力が身に付いた。

実務経験豊富な先生方が多く、経営の成功例だけでなく失敗例や意思決定の背景まで学べます。経営を机上の理論だけでなく、現実のこととしても捉えられるようになりました。学びを深める中で、失敗を恐れず一歩踏み出す大切さを知り、実践の場を求めて福岡の次世代リーダー育成プロジェクト「ネオアカデミア」に参加しました。地元企業と協業する中で、自ら考え計画的に行動する姿勢が身に付き、起業家という夢に近づけたと感じています。

特に「3年専門ゼミナール」では、実現したい目標を自分たちで決め、実行します。私はパティシエを目指す友人らとチームを組み、マルシェ出店に挑戦しました。商品作りや売り場デザインでは、1・2年次に学んだ経営理論をどう生かすか考えながら準備を進めました。出店までの過程を通して、考えてから動くのではなく行動しながら考える姿勢が身に付き、自分の決断に迷いが少なくなりました。前向きな道を選べるようになったことは、私にとって大きな財産になっています。

私の時間割(3年次後期)

	月	火	水	木	金
9:00					
10:40	近代日本商業史	新しい地球観	オペレーションリサーチ		
13:00	3年専門ゼミナールⅡ	倫理学B	情報社会論		
14:40	金融システム論	心理学B	生活と環境の化学		
16:20	中小企業と法	交通政策			

卒業生の声

創業体験で実感した“人材の大切さ”を礎に
人事として、組織の未来を支える。

本学科では、経営、マーケティング、財務管理など、ビジネスの基礎を講義で学び、地域連携プロジェクトなどを通じて実践に結び付けます。特にゼミの創業体験プログラムから、多くの学びを得ました。チームで事業計画を策定し、文化祭で模擬店を出店した時、自分の役割を認識し、連携して組織全体の目標を達成した学びとなり、「人材が企業の競争力を左右する」事実を強く実感しました。

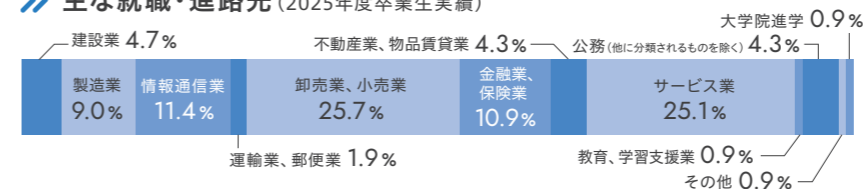
現在は人事部に所属し、人事システムの刷新に取り組んでいます。他部門と連携しながら課題を解決する力は、大学で得たスキルそのものです。経営戦略やマーケティングに加え、人材配置や育成を通じて組織全体の生産性向上に貢献でき、大きなやりがいを感じています。

在学中は海外研修プログラムにも参加しました。多様な価値観に触れて身に付いた、柔軟な思考力や相手に配慮した対話力は私の自信につながっています。



泉 聡子 さん (2016年卒業)
株式会社安川電機

主な就職・進路先 (2025年度卒業生実績)



●商学部の主な就職先は36ページ●

経営学科を理解する5つのポイント

01

マネジメントのプロを育成

企業の組織管理について具体的な諸問題にアプローチします。マネジメントに必要なさまざまな科目や少人数の専門ゼミを通して戦略策定、組織構築、人的資源管理などの経営学を体系的に学びます。経営者に限らず、マネジメントを担うことのできる人材は会計も理解する必要があります。簿記をはじめとする豊富な会計科目を通して、経営を数字の面から理解していくことを目指します。

関連する主な科目

■経営入門

経営学の基礎的知識や物事を考える力を身に付けていきます。

■経営学総論

経営を「経営されるもの」と「経営すること」の両面から捉えていきます。



04

起業の可能性を高める学びを数々提供

起業(=会社を自分で設立して運営する)を意識する学生には、戦略的意思決定のシミュレーション手法や国際市場への進出手法を学ぶことを推奨しています。これらに各専門科目の学びにより培った知識と理論を応用し、起業の可能性を高めます。

関連する主な科目

■企業戦略論

企業を長期的な成長に導く計画を立てるために考えるべきことを学びます。

■意思決定会計論

会計情報に基づく企業の意思決定を学びます。

■会社簿記

会社の経営状況を把握し、利害関係者に情報を提供する方法を学びます。

■税務会計論

会社経営と税金の問題は密接に関係していることを学びます。



02

会計のエキスパートを養成

公認会計士、税理士といった士業としての会計のプロフェッショナルはもちろんのこと、企業内で経営者をサポートする経営企画部門や財務部門で働く人材を養成します。実践的な会計の専門科目や、会計を専門とする少人数の専門ゼミで会計を体系的に学びます。また、会計だけではなく、経営学の諸科目を履修することで、数字の裏にある人や組織の動きも捉えられる会計のエキスパートを目指します。

関連する主な科目

■簿記原理

企業の経済活動を記録する手段である簿記と簿記を含む会計学の基礎を学びます。

■原価計算論

製品の原価(一単位当たりの金額)を正確に計算することで、会社の経営活動を学びます。



05

実践につながる「特別講義」や資格取得の「支援講座」を開講

企業経営に意欲的な学生が、さらに実践的に学べる「特別講義」を開講しています(単位認定対象)。また、公認会計士、税理士、簿記検定などの資格取得の「支援講座」を積極的に開講しています。キャリアセンターによる資格取得講座(課外)の受講も奨励しています。

関連する主な科目

■経営特別講義A (経営×デザイン)

デザイン思考やサービスデザインなど企業経営における価値創造とデザインの関係を学びます。

■特別ゼミナールB (会計プロフェッショナル養成)

新会計基準および国際会計基準の理論的背景とその内容を学びます。



03

理論(考え方)×実践(現実)

経営学科の講義では経営の理論(考え方)について実際の企業のケースに基づき学習します。経営理論を学ぶだけでなく、さまざまな業界の優良企業についての知識も身に付きます。またゼミナールでは経営理論の実践に挑戦したり、実際の経営について調査を行ったりすることで実践と理論を結び付けていきます。

関連する主な科目

■経営管理論

組織を形成し、動かしていくための原理・原則を学びます。

■オペレーションズリサーチ

経営における、ものごとの上手な決め方を学びます。

■会計学特論

企業制度や企業グループの会計処理などについて学びます。

■経営分析論

会計情報から何を読み取るかを学びます。



TOPICS

学科の取り組み

経営学科の初年次教育—経営基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ

経営学科では高校の学びから大学の学びへのスムーズな接続を重視しています。1年前期の経営基礎ゼミナールⅠでは、「問いを立てる」ことや、信頼できる論拠(一次資料など)に基づき主張を展開すること、論理的文書の作成といった大学での学びの土台を学びます。1年後期の経営基礎ゼミナールⅡでは、アカデミック・ライティング、アントレプレナーシップ、ビジネス・モデル、量的・質的研究法など経営学のトピックスを学びます。



経営基礎ゼミナールⅠでのグループワークの様子

教員の紹介

※2026年4月1日現在

会計系列



池田 健一 教授

担当科目
「国際会計論」「会計学特論」「簿記原理」

国際会計論は、企業の経済活動が国境を越えてグローバルに展開されるようになるに伴って生じる会計上の問題(例えば、連結会計、外貨換算会計、企業結合会計など)を主な研究領域としています。国際会計論の授業では、国際財務報告基準(IFRS)と日本の会計ルールの共通点と相違点に着目しながら学習します。会計学特論は、国際会計論の授業で取り上げなかった重要論点について学習していきます。



篠原 巨司馬 教授

担当科目
「管理会計論」「クリエイティブ社会論」

管理会計論は、経営を行っていく上で会計数値を使い、どのように戦略的な意思決定や現場での新たなイノベーションの機会探索を行うのかというテーマと、会計情報を用いて組織をどのように動かすのかというテーマの両面について考える授業です。クリエイティブ・マネジメント演習は、ゲームの分析・制作を通じて企画プロセスを学ぶ実践的な科目です。



高橋 秀至 教授

担当科目
「税と生活」「税務会計論」

租税は、国民生活のあらゆる場面で課されます。税法は、租税債権・債務にかかる国家と国民の権利・義務を規律する法であり、「税と生活」では、税法の基礎理論を学習します。税務会計は、申告納税方式の租税に関する会計です。申告納税方式の租税は、納税者(国民)自身が確定申告をして、税法にしたがった納税義務を履行しなければなりません。「税務会計論」では、法人税の課税要件について学習します。法人税法の解釈を学び、法人税の計算ができるようになります。



田坂 公 教授

担当科目
「原価計算論」

工業経営で行われる簿記と初歩的な原価計算について併せて学習していきます。リングでビジネスを行う方法を商業経営と工業経営で分けて考えてみましょう。八百屋は、リングを仕入れたらそれに利益をつけてそのまま売ります(商業経営)。一方、飲料水メーカーでは仕入れたリングをリングジュースに加工して販売します(工業経営)。加工したとき、「ジュース1本あたりの原価を計算」して利益を算定する技術が「原価計算」です。



長束 航 教授

担当科目
「会計学総論」「会社簿記」「監査論」

会計学総論では、会計学を勉強していくための前提として、会計学の基本中の基本の考え方を学習します。企業では、そもそもなぜ会計が必要なのでしょう?会計にはどのようなルールがあり、そのルールはどのように作られてきたのでしょうか?会計のもっとも中心的な概念として「利益」(もうけ)がありますが、その「利益」とは何なのでしょう?実際に起きた会計に関する事件なども紹介しながら、会計学の面白さをお話しします。



渡辺 剛 教授

担当科目
「簿記原理」「財務会計論」

経営学科の専門科目には、経営学に関連する科目(経営系列科目)と会計学に関連する科目(会計系列科目)があります。「簿記原理」も会計系列科目です。会計とは、企業の経済活動を記録、集計、報告する行為です。「簿記原理」では、企業の経済活動を記録、集計、報告する具体的な方法を学びます。



飯塚 雄基 准教授

担当科目
「簿記原理」「財務会計論」「監査論」

いずれも企業の財務諸表を理解するための科目です。簿記原理は財務諸表作成の方法、財務会計論は財務諸表作成の考え方、そして監査論は財務諸表への信用を確保するための方法を学ぶ科目です。



飛田 努 准教授

担当科目
「経営分析論」「意思決定会計論」

企業経営の成果や進捗は貨幣的価値で測定されます。そうした情報は経営者だけでなく、従業員、取引先、投資家などさまざまな利害関係者に利用されます。経営分析論は、企業が報告する財務諸表と実際の企業行動を突き合わせながら、「良い企業」とはどのような企業なのかをデータに基づいて検証する授業です。意思決定会計論は、企業において経営者が意思決定を下す際の判断基準となる情報がいかに作られ、判断するかを学ぶ授業です。



山本 健人 准教授

担当科目
「監査論」

企業の活動は財務諸表という「成績表」にまとめられます。しかし、その作成者は評価される側である経営者自身です。もし自分で成績をつけられるとしたら、少し良く見せたくありませんか。こうした状況では、その情報を本当に信頼してよいのかという疑問が生じます。この問題を解決するのが財務諸表監査です。財務諸表監査とは、企業から独立した第三者が財務諸表を検証し、その信頼性にお墨付きを与える仕組みです。本講義では、その理論や制度、実施方法を学び、監査の役割と意義を考えます。

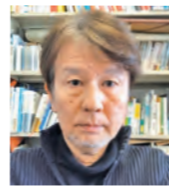


滝沢 凜 講師

担当科目
「経営基礎ゼミナール」
「特別ゼミナールB(会計プロフェッショナル養成)」

福岡大学の会計専門職プログラムは、深い教養および高度な会計学の理論を身に着け、在学中に公認会計士試験に合格することを目標とするものです。プログラム生を対象とした「経営基礎ゼミナール」では、グループワークを通じて、会計専門職や経済事象への理解を深めます。また、「特別ゼミナールB(会計プロフェッショナル養成)」では、公認会計士試験の試験委員(作問者)の視点に立ち、グループごとにその思考の流れについて考察します。

経営系列



合力 知工 教授

担当科目
「経営戦略論」「企業戦略論」

「人生・仕事の結果=考え方×熱意×能力」と言われ、中でも一番大切なのが「考え方」であるとされています。経営戦略論では、この「考え方」について学びます。また、企業戦略論では「人を大切に経営」について、特に、コーチングを通じてリーダーシップを通じて学んでいます。



藤野 真 教授

担当科目
「経営学総論」「クリエイティブ・マネジメント演習」

経営管理論は、企業が価値あるものを作り出すための全社的な管理の制度や方法を学ぶ科目です。managementとは「やりくりする」という意味を持っています。経営管理論では、外部環境や内部環境(企業内部)の制約を所与のものとして、「うまくやりくり」することを考えていきたいと思います。



河瀬 宏則 教授

担当科目
「経営財務論」

経営財務論は「カネのマネジメント」に関する科目です。カネの側面から企業の価値をいかに高めるかについて議論します。小規模のビジネス展開だけでなく自己資金でも十分かもしれません。しかしビジネスを大きく展開させるためには、資金を提供してくれる投資家の力が必要です。投資家はどのような期待をし、資金を提供するのでしょうか。一方で経営者はどのような期待に応えなくてはならないのでしょうか。経営財務論はこうした観点から投資プロジェクト、資本構成、配当政策などのテーマについて考えていきます。



柴田 好則 准教授

担当科目
「ヒューマンリソースマネジメント」

この科目は、経営において最も大切なリソースである「人」を生かす仕組みを学ぶ学問です。人がいきいきと働くために組織はどうあるべきか、また、一人一人が優れた成果を出し成長し続けるにはどのような仕組みが必要になるのか、理論と事例を通して体系的に学習します。将来、学生の皆さんがアルバイトや就職で働く側になった際にも役立つ実践的な科目です。



猿田 冬樹 講師

担当科目
「経営学総論」「商学のための数学」

経営学は企業をはじめとした組織の「経営」に注目した学問であり、研究対象や分析手法によって非常に幅広い分野にまたがっています。1年次に開講される経営学総論では、経営学の諸分野がそれぞれ、何を研究対象としていて、どのような問題を解決できるのか、またそれらを学ぶこと/研究することにはどういった意義があるのか、といった点を概観していきます。皆さんの経営学科での4年間の学びがさらに充実することを目標に講義を行います。

高校商業・情報科教員育成プログラム



野上 高義 特任教授

担当科目
2年基礎ゼミナール「教員育成P」
「特別ゼミナールB(教員実力養成)」
「情報科教育法Ⅰ・Ⅱ」等

商学部(商学科・経営学科)ならびに商学部第二部では、商業と情報の複数の高校教員一種免許が取得可能です。本プログラムは、本学卒業と同時に生涯に生かすことのできるこのライセンスを獲得し、次代を担う高校教員を目指すものです。36年間の高校教員としての経験から、師弟の絆や実学教育の魅力、教員のやりがいなどを伝えていきたいと思います。



中島 賢一 教授

担当科目
「クリエイティブ社会論」
「クリエイティブ・マネジメント論」

デジタルゲームをスポーツ競技として捉えたeスポーツは世界中で拡大しています。クリエイティブ社会論ではeスポーツが社会にもたらすベネフィットを探索することで新たなソーシャルビジネスの新しいタッチポイントを明確化し、社会課題型eスポーツの在り方を議論していきます。クリエイティブ・マネジメント論ではeスポーツを単一のビジネスとしてではなく新たな産業として確立するための必要な要素について考えていきます。



森田 泰暢 教授

担当科目
「経営入門」「地域経営論」

「経営」は決して遠い世界の話ではありません。皆さんの日々の買い物やアルバイト、サークル活動も、実は経営学の視点で読み解くことができます。1年次生向けの「経営入門」で消費者としての日常から一歩踏み出し、「サービスや商品を提供する側」の視点で物事を捉え直すトレーニングを行います。さらに、より実践的な「地域経営論」では、地域の企業やスポーツチームと連携し、正解のない課題にチームで挑むPBL(課題解決型学習)を行います。基礎理論から現場での「共創」まで、好奇心を軸に、社会を動かす面白さを一緒に体感していきます。



大上 麻海 准教授

担当科目
「経営心理学」

経営心理学は組織の中の人の心理について学ぶ科目です。ただし心理学の視点のみでなく、人の心理が組織の管理にどのように影響しているのかという経営学の視点も用いて学んでいきます。モチベーション、リーダーシップ、愛社精神、不公平感など働く際に人間が持つ心理を学術的に理解した上で、最終的に組織の中で協力して働くとはどういうことかについて考えを深めていきます。



樋口 あゆみ 准教授

担当科目
「経営組織論」

「組織」という言葉を聞くと、どこか遠い存在に感じるかもしれません。しかし、私たちは常に大学やサークル、アルバイト先など、何らかの組織に属して活動しています。この授業では、そんな身近な組織から大企業まで、あらゆるチームを分析するための見方を学びます。「組織に属するとは本当に歯車になることなのか」といった日常的な疑問を、組織論の視点からひもといていきましょう。理論を知ること、自分が関わる組織の意外な一面が見えてくるはずです。



谷川 陽一 特任教授

担当科目
「特別講義A(教員育成入門)」
「特別ゼミナールA(教員育成基礎)」
「教育実習事前・事後指導」「商業科教育法Ⅰ・Ⅱ」など

人を育てることは「国家百年の大計」と言われます。教員は我が国の次世代を担う若者を育てる崇高な使命を持った職業です。高校(教諭・管理職)および県教育委員会における38年間の勤務経験により、その魅力ややりがいを詳細に伝えるとともに、学生の皆さんが持つ個々の能力を引き出し、商学部および商学部第二部で培った専門性を生かし、自信と誇りを持って教壇に立つことを目指します。

貿易学科

Department of International Trade



九州・福岡からアジア・世界へ グローバルに活躍する人材となるために。

「高度なビジネス英語の力を身に付け仕事に生かしたい」「貿易や金融などの国際ビジネスの場で実力を発揮したい」「九州と世界をつなぐ仕事をしてみたい」「アジアをはじめとする途上国の経済発展に貢献したい」。

本学科ではそのような目標を持つ学生たちに、専門的な学びと実践的な英語教育を4年間を通じて提供。

実務につながるスキルを身に付け、世界を舞台に活躍できる人材を育成します。

求める人材像(求める能力)

- A 知識・理解** 高等学校の教育内容を幅広く学習しており、商学・国際貿易を学ぶに十分な基礎学力を有している人
- B 技能** 学習や課外活動での経験によって、他者とのコミュニケーションがとれる人
- C 態度・志向性** 国際感覚を持ったビジネスリーダーを目指し、地域と世界をつなぐことによって社会に貢献したいと考えている人
- D その他の能力・資質** 自己研鑽により、英語をはじめ各種の資格・検定試験に合格した人

求める人材像
(求める能力)
の詳細は



貿易学科での4年間

1年次

貿易を学ぶ 基礎を固める

「貿易入門A・B」「ビジネス英会話初級」「貿易基礎ゼミナール」「ステップアップゼミナール」の他、流通・金融・経営・会計の各専門科目の学びから、貿易を専門的に学ぶ基礎を固める。



2 / 3年次

貿易に関する、より高度な専門知識を 4領域6分野から修得する

貿易実務・ ビジネス英語領域	貿易実務分野	実際の貿易に必須の専門知識を学ぶ。
	ビジネス英語分野	ビジネスの現場で使える英語を身につける。
国際ビジネス領域	国際ビジネス分野	国際的なマーケティング・経営・会計を学ぶ。
	貿易論・ 国際金融領域	貿易の理論や歴史、政策を学ぶ。 国際金融の理論と仕組みを学ぶ。
各国・地域経済領域	各国・地域経済分野	日本やアジア、欧米の経済を学ぶ。

4年次

卒業論文で 学びを 集大成する

それまでのゼミでの研究成果を卒業論文にまとめ、4年間の集大成とする。



専門教育科目
カリキュラム



学科
公式ウェブサイト



取得可能な主な資格

- 中学校・高等学校教諭一種免許
- 貿易実務検定
- 通関士 など

在学生の声



2年次生 中野 由紀乃 さん

(福岡県 久留米商業高校出身)

身の回りの物を見る視点が変わる。
物事を多角的に捉えられるようになった。

私たちの生活と貿易とのつながりを深く学べます。授業では、食品や洋服、スマートフォンといった身近な製品が、どのようなルートで私たちの元に届くのかを具体的に考えます。当たり前手に取っている物の裏側に、多くの国や人、企業が関わっていると知り、貿易が生活を支える重要な仕組みだと理解しました。学びを重ねる中でニュースの見方も変わり、紛争や貿易摩擦について「なぜ起きるのか」「生活にどう影響するのか」と考え、他国の出来事を自分ごととして捉えられるようになりました。

特に印象的な科目は「貿易商務論」です。貿易事例をもとに消費者や企業、生産国など、それぞれの立場からメリットとデメリットを考察します。視点によって意見が異なることに気づき、物事を多面的に考える難しさと面白さを実感しました。国際取引には経済だけでなく、政治や人権、歴史的背景も深く関わっています。高校時代から好きだった地理の知識が、貿易という視点でつながり、世界を見る視野が広がりました。

私の時間割(2年次前期)

	月	火	水	木	金
9:00		開発経済論B	キャリアデザイン		
10:40		特別支援教育論		国際貿易論 I	開発経済論A
13:00				世界経済論	教育制度論
14:40	インターメディアイト・イングリッシュ	特別ゼミナールB(オレゴン大学)			
16:20	概説日本史	貿易商務論A	海外文芸ゼミナール(オレゴン大学)	インターメディアイト・イングリッシュ	

卒業生の声

発展途上国の社会課題を探究。
外務省専門調査員として、国際協力に携わる。

大学時代のゼミや講義では、貧困問題や国境を越えた経済活動、開発援助と地域社会などを深く学び、発展途上国の文化や社会・経済成長の課題と可能性に強い関心を持ちました。机上の学びだけでなく現実を理解したくて世界各国を旅行したことが、国際経済への探究心を深める大きな契機となりました。卒業後は外交の最前線での政策形成プロセスを学ぶため、ロンドン大学SOASで南アジア経済に焦点を当てた開発学修士課程を修了しました。

現在はバングラデシュ日本国大使館の外務省在外公館専門調査員(経済・経済協力分野)として、マクロ経済分析や国際協力事業に従事しています。仕事で重要なのは「異なる意見を受け入れる柔軟性」です。相手の立場や考えによって変化していく視点を見つけ出す力は間違いなく、大学での学びや関心が基礎となっています。将来は博士課程への進学を視野に入れており、現職での実務を通して専門分野の知見を高めています。



久富 康平 さん (2022年卒業)

在バングラデシュ日本国大使館

主な就職・進路先 (2025年度卒業生実績)



●商学部の主な就職先は36ページ●

貿易学科を理解する5つのポイント

01

ビジネスを理解できる国際人を育成するための充実した教育

経済とビジネスのグローバル化は私たちの足もとから地球の隅々にまで及びその担い手と経路も多様です。貿易学科は、グローバルな視点で判断し、行動できる国際人になるための充実した科目群を提供します。

貿易学科の主要科目は、4つの領域と6つの分野に分かれており、ビジネスを理解できる国際人の育成を目指しています。

関連する科目(抜粋)

貿易商務論A・B / 貿易実務初級・上級 / 国際貿易論I・II / 国際金融論I・II



国際社会の“今”を読み解くための基礎教育

貿易基礎ゼミナールでは基礎的な資料を教材に、国際社会への関心と理解を深める学びを提供。さまざまな資料や文献を読んで、レポートや論文を作成するための読解力や文章を書く力の向上にも取り組みます。ステップアップゼミナールでは、グループ活動や入門書の輪読などを通してさらに貿易学科で学ぶために必要なスキルを高めます。

貿易学科での学びを全般的に紹介し、基礎知識を修得するための科目として貿易入門A・Bが設けられており、貿易理論の基礎や地球規模の課題について問題関心を広げることができます。

関連する科目(抜粋)

貿易基礎ゼミナール / ステップアップゼミナール / 貿易入門A・B



02

ネイティブスピーカーによる実践的なビジネス英語教育

ネイティブスピーカーが、「読む・書く・聴く・話す」の英語4技能を少人数制の授業で教育。4年間を通じてじっくりと取り組み、国際ビジネスの場で通用する高度な英語能力を身に付けます。

1年次に履修できるビジネス英会話初級でまず基礎力をつけます。そして、英語の経済新聞や雑誌などを読みこなせるように、各種の外書講読科目の受講が推奨され、インターネット上のビジネス記事も深く理解できるようになっていきます。

関連する科目(抜粋)

ビジネス英会話初級 / ビジネス英会話中級 / ビジネス英会話上級 / 外書講読IA・IB / 外書講読IIA・IIB / 外書講読上級A・B



03

国際ビジネスの実際に迫る専門教育

グローバル企業を研究するゼミや貿易のプロから学ぶ実務講義など、国際ビジネスの実際に迫る科目を広く展開。自身の専門知識や能力の生かし方を含め、卒業後の進路選択につながります。

例えば、貿易実務を学ぶなら、貿易商務論、貿易実務初級・上級などを学んだ後、実務経験豊富な教員が担当する国際物流論や海上保険論などを修得することができます。そして、国際貿易論や国際金融論で修得した知識や考え方を踏まえて、貿易政策や国際政治経済学を学んで理解を深めることもできます。また、国際協力論など「開発学」の科目によって途上国の課題について学ぶことができます。

関連する科目(抜粋)

貿易政策 / 国際政治経済学 / アジア経済論A・B / アメリカ経済論I・II / ヨーロッパ経済論I・II / グローバル企業論 / 国際物流論A・B / 海上保険論A・B / 開発経済論A・B / 国際協力論A・B



04

4年間を通じた少人数制のゼミ

少人数制のゼミナールを4年間配置。国際経験豊かな専任教員が担当します。少人数での活発な議論を通じて、視野を広げることができます。

1年次では、貿易基礎ゼミナールとステップアップゼミナールで貿易を学ぶ基礎力を身に付けることができます。また、2年次後期からはじまる2年半の専門ゼミナールによる研究で問題意識をさらに掘り下げます。4年次には論文ゼミナールで卒業論文の作成に取り組み、4年間の学びの成果をまとめます。

関連する科目(抜粋)

貿易基礎ゼミナール / ステップアップゼミナール / 2年専門ゼミナール / 3年専門ゼミナールI・II / 論文ゼミナール



05

TOPICS

学科の取り組み

さまざまな人や社会とつながるゼミ活動

国内外と人やモノが行き来する拠点として、大きく発展している博多港と福岡空港。コロナ禍の前ですが、最前線の業務の拠点をゼミで訪問し、大学で学んだ貿易実務を肌で感じることができました。コロナ禍でもゼミ活動は積極的に行っています。2022年度は、貿易学科の複数のゼミが、オンラインで開催された全国規模のゼミ大会に参加。貿易や世界経済に関する論文を事前に作成して、各地の大学の学生と討論し、交流しました。



博多港の概要を学ぶ学生

教員の紹介

※2026年4月1日現在



**アケミ
キュチュクアリ** 教授

担当科目 「アジア経済論B」
「開発経済論B」

現代の発展途上国は、先進国の技術的・経済的優位性に追いつくことが困難になっています。東アジアの発展途上国を中心に、後発性の社会的・歴史的・経済学的な原因と発展途上国の福祉を向上させるための重要な政策について講義します。特に、工業化メカニズムと産業政策に焦点を当て、その背景にある制度と政治経済について検討します。



大石 恵 教授

担当科目 「海外直接投資論」
「グローバル企業論」

経済のグローバル化が進み、国境を越えた企業活動も活発に行われるようになりました。企業の進出先は、各国ごとに法律も、文化も、言語も異なります。それでもなお、企業が海外で活動をするのはなぜでしょうか。それは、どのような戦略のもとで進められるのでしょうか。グローバルな企業活動とその課題について、考えていきます。



掛下 達郎 教授

担当科目 「アメリカ経済論I」
「アメリカ経済論II」

現在の日本経済を語るには、アメリカ経済を理解することが重要です。通常、アメリカ経済は自由競争の側面が紹介されています。講義では、自由競争を支える消費社会、軍需産業、福祉国家と貿易政策を取り上げます。なるべくビデオ、写真、図表を使って皆さんの頭の中に具体的なイメージが湧くようにしていきます。本講義全体から、経済学の有効性と限界を感じてもらえたら有難いと考えています。



松永 達 教授

担当科目 「国際貿易論I」
「国際貿易論II」

国際貿易論Iでは、国際貿易に関する基礎的理論を把握した上で、自由貿易の帰結と現実の貿易構造の変化を学びます。国際貿易論IIでは、国家による通商政策と、それがもたらす帰結や国家間の対立と協調について学びます。そして、サービス貿易、対外投資、知的財産権といった新たな領域が通商政策において重視されるようになったことと、特定国の間での協定の増大についても学びます。



岡 陽子 准教授

担当科目 「貿易商務論」
「海外交流ゼミナール」

貿易商務論では、国際貿易における各国の政策、企業の思惑、消費者にとっての便益など、ステークホルダーそれぞれの視点から様々な事象を観察し、私たちの住む社会への直接そして間接的な影響を学びます。海外交流ゼミナールでは、特別ゼミナールBと併せて現地研修に備えるため、米国の政治・ビジネス・文化を学びます。



**ポープ
クリストファー**
准教授

担当科目 「国際政治経済学」
「貿易特別講義B」

既存の国際通貨制度は、永遠に続くと思いがちですが、それは事実と全く異なります。さらに、これらの制度が変わると、我々の国際政治経済体制があっという間に根こそぎ再形成されてしまいます。これらの発展について学ぶことは、豊かで平和な未来に貢献したい若者にとって大きなチャンスですから、国際政治経済の画期的な変化を取り上げていきます。



伊豆 久 教授

担当科目 「国際金融論I」
「国際金融論II」

国境を越えておカネをやりとりする…そのことにはどんな意味があるのでしょうか。日常生活の中ではなかなか意識しづらいですね。ですが、金融は私たちの生活にとても大きな影響を与えています。金融というレンズを通して、私たちが生きる現代社会の特徴・課題を考えたいと思います。



大矢 浩之 教授

担当科目 「貿易実務初級I・II」
「貿易実務上級I・II」

ビジネスのグローバル化は日々進化しており、またその担い手の役割も多様に変化をとげています。貿易実務、貿易マーケティング、国際物流など多岐の観点で学びを進めて、現在起こっている各種課題を認識し、そして課題解決に向けて、一緒に考えていきたいと思います。「国際ビジネスの実際」に触れることで成長していきましょう。



木幡 伸二 教授

担当科目 「開発経済論A」
「アジア経済論A」

開発経済論は、開発途上国はどのようにしたら発展できるのか、について考える学問です。開発経済論Aでは、経済発展のための基礎理論と課題解決のための政策について学びます。アジア経済論Aでは、開発経済学の視点からアジアで最も重要な存在となった中国のさまざまな課題について検討します。



豊 嘉哲 教授

担当科目 「ヨーロッパ経済論I」
「ヨーロッパ経済論II」

ヨーロッパ経済論をEU経済論として開講します。EUとは欧州27か国の集まりであり、それらは一部の法律や制度を共有しています。このうち20か国はユーロと呼ばれる共通のお金を使い、各国独自のお金を持っていません。またあなたがEU加盟国間を移動するとき、一部の例外を除いて国境でチェックされることはありません。このような独特のまとまりであるEUの経済現象や経済政策を説明します。



林 裕 准教授

担当科目 「国際協力論A」
「国際協力論B」

国際協力論では、世界の開発、戦争と平和、貧困や格差、グローバル化の功罪など、現代世界で起きていること、そしてその中にある私たちを取り上げています。「楽(らく)」ではありませんが、そこから学ぶことの「楽しさ」を知り、世界と私たちに関する視角を育んでほしいと思っています。

商学部第二部 [夜間部]

確かな目的がある。
世代を超えた交流がある。

- 1 夜間の時間を中心にした、商学部(昼間部)の授業の履修が可能で、時間を有効に使える
- 2 会計職専門プログラムや高校商業・情報科教員育成プログラムなどの専門のプログラムがある
- 3 授業等を通じて社会人学生との交流の場がある
- 4 家計負担の少ない学費と商学部第二部独自の奨学金制度
- 5 学生支援ワークステディで「学内で働きながら通学」
- 6 サークル活動や学内施設利用が可能



Message

第二部主事メッセージ

次世代の地域社会を担うために



第二部主事 **杉本 宏幸** SUGIMOTO Hiroyuki

商学部第二部は1953年以来、高校卒業後の学生や勤労学生の学びだけでなく、公務員、経営者、看護師、シニア層などの社会人学生へリカレント教育や生涯学習の場として学びを支えてきました。多様な学生が切磋琢磨できる機会があることは商学部第二部で学ぶ大きな意義です。

この環境をさらに生かすため、少人数で行われるゼミナールの活性化などに取り組んでいます。商学の知識や理論だけでなく、ビジネスの現場に必要なプレゼンテーションやコミュニケーションの力を身に付け、地域社会で活躍できるビジネスパーソンを育成するためです。

専門的な学びを深めるため、「会計専門職プログラム」「クリエイティブ・マネジメント・プログラム」「高校教員育成プログラム」など

を商学部と共に提供しています。公認会計士・税理士、教員など特定分野の人材育成のニーズに応えようとしています。2025年4月入学生からは「マーケティングプログラム」が加わり、データがわかるマーケターの育成を開始しています。

70年を超える歴史の中で、商学部第二部は1万3,000人以上の卒業生を輩出してきました。卒業生は特に地元九州・福岡の経済・社会を支えています。社会での活躍に必要な学びを支えるために、教育支援、奨学制度の充実も図っています。高等教育の修学支援新制度などだけでなく、大学で働きながら学べる「学生支援ワークステディ事業」を立ち上げ、学生生活をバックアップしています。

次世代の地域社会を担う一人として、ぜひ商学部第二部で共に学びましょう。

商学部第二部 商学科

Faculty of Commerce Evening School /
Department of Commerce



働きながら学ぶ。学びをすぐに実践に生かせる。 その積み重ねが、キャリアアップにつながっていく。

商学部第二部には、高校を卒業したばかりの学生はもちろん、昼間は社会人として働いている人など、多様な人々が共に学んでいます。その目標は「自分を磨いてキャリアアップしたい」や「資格を取得したい」、「大学院に進学したい」、「学費を考慮して」など明確であり、誰もが高い向学心を持っているのが大きな特色です。それだけに授業に取り組む姿勢は常に意欲的です。また境遇や年齢が異なるクラスメートとの触れ合いが、視野を広げ価値観を磨いてくれます。自立した学生生活を目指す人、1日24時間、時間を有意義に使いたい人は商学部第二部へ。その熱い思いを私たちは強くサポートします。

求める人材像(求める能力)

- A 知識・理解** 高等学校の教育内容を幅広く学習しており、商学を学ぶに十分な基礎学力を有している人
- B 技能** 学習や課外活動から得た経験やデータについて論理的に説明しようとする習慣を身につけている人
- C 態度・志向性** 経済社会の現実の諸問題の解決能力を身につけ、将来、地域経済のリーダーとなる意欲に溢れる人
- D その他の能力・資質** 自己研鑽により、英語をはじめ各種の資格・検定試験に合格した人およびキャリア・アップを目指す社会人

求める人材像
(求める能力)
の詳細は



第二部商学科での4年間

1年次

基礎ゼミナールで 学びの土台を形成

レポート作成法や資料・文献からの情報利用法など、大学で商学を学ぶための導入教育を実施。



2 / 3 / 4年次

専門的な学びを進め、ゼミナールで深い議論を

流通・金融 モノ・お金・情報の流れや交通・保険等を現実から学び、諸問題の解決能力を身に付ける。

会計 企業の現状を会計面から把握、経営陣や利害関係者に諸情報を提供するための実務を学ぶ。

経営 企業経営のメカニズムを学びつつ、マネジメントやリーダーシップなどの実践的能力を高める。



専門教育科目
カリキュラム



学科
公式ウェブサイト



取得可能な主な資格

- 中学校・高等学校教諭一種免許 中小企業診断士 税理士 公認会計士 簿記検定
- 情報処理技術者 ファイナンシャルプランナー 証券アナリスト など

在学生の声



3年次生 山下 順平 さん
(福岡県 福岡講道館高校出身)

授業で得た知識はアルバイト先で実践。 学びが自分の強みと進路を見つけるきっかけに。

経営やマーケティング、情報など幅広い分野を学びながら、自分の興味や将来の方向性を見つけられるのが魅力です。マーケティングの授業で「消費者ニーズ(必要性)」と「ウォンツ(それを満たす手段)」の違いを学び、接客販売のアルバイトでこの考え方を意識すると、お客さまが求めていることに沿った提案ができるようになりました。自分の対応で喜んでもらった経験から仕事のやりがいを実感し、将来の進路も具体的に考えるようになりました。

「国際ゼミナール」が好きな科目です。グローバル化によって世界のビジネスや流通がどのように変化しているのかを学びました。「コミュニケーション能力」をテーマにレポートを作成し、特に重要だと感じたのが「聴く力」です。相手の考えや背景を理解する姿勢が円滑なコミュニケーションにつながると気づき、日常生活でも意識するようになりました。学びを通して、知識だけでなく人との関わり方や考え方も変化し、成長していると感じます。

私の時間割(2年次前期)

	月	火	水	木	金
10:40					2年基礎ゼミナール
13:00					教育制度論
16:20			道徳教育論	宗教学A	
18:00	情報社会論	インターメディアト・イングリッシュII	近代日本商業史	概説社会学	インターメディアト・イングリッシュI
19:40	概説政治学	情報産業論	国際ゼミナールA		生涯スポーツ演習II

卒業生の声

ゼミで培った“実践力”と“挑戦し行動する姿勢”を仕事で発揮。

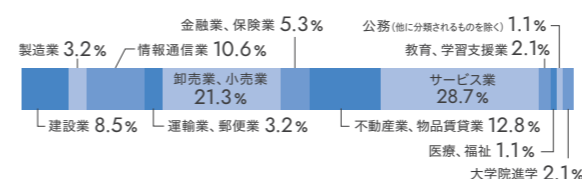
本学科では、学費を抑えながらマーケティングや経営戦略などを深く学べる環境があり、ゼミでの学びを通して、実践的な力を培えるのが魅力です。私は創業体験プログラムで会社を立ち上げ、売上を伸ばすために仲間と議論しながら意思決定を重ねる中で、「挑戦し続けることの価値」を学びました。この経験で培った主体性と行動力は、仕事の原動力となっています。

現在は、文房具の販売をはじめ、長崎の文化や景観をモチーフにデザインしたオリジナル文房具を企画・製造・販売する会社に勤めています。国内外のイベントへ自ら赴き、自社製品の販売を通じて長崎の魅力発信に精力的に取り組んでいます。また、自社を県外に知ってもらうために、デジタルマーケティングのゼミで身に付けたGBP(グローバルビジネスプロフィール)のスキルを生かす機会を頂き、自社サイトを上位表示させ、1年間で300人以上の集客に成功しました。学科で学んだあらゆるスキルは、仕事も人生も豊かにする力となっています。



光嶋 顕介 さん(2024年卒業)
石丸文行堂

主な就職・進路先(2025年度卒業生実績)



[就職先の例 2023年度~2025年度]

- 建設業**
(株)クラフティア
- 製造業**
(株)資生堂
- 情報通信業**
(株)NTTデータ・
ファイナンシャルテクノロジー
- 卸売業、小売業**
リコージャパン(株)
西部ガスリビング(株)
イオン九州(株)
- 金融業、保険業**
(株)福岡銀行
(株)西日本シティ銀行
日本生命保険(相)
- 学術研究、専門・技術サービス業**
(株)西鉄エージェンシー
ヤマエグループホールディングス(株)
EY税理士法人
辻・本郷税理士法人
有限責任監査法人トーマツ
- 教育、学習支援業**
福岡市教員(小学校)
- 複合サービス事業**
日本郵便(株)
- 公務(他に分類されるものを除く)**
国税専門官
労働基準監督官
須恵町役場
福岡県警察本部

など

第二部商学科を理解する5つのポイント

01

リーズナブルな学費と充実した奨学制度

商学部(昼間部)と比較して約半分の学費で大学に通うことができます。また、通常の奨学金制度に加え、卒業生の寄附等を財源とした商学部第二部独自の奨学制度(返還不要の奨学金)も設けられていますので、やる気と努力次第でほとんど自己負担なしで大学を卒業することも可能です。

大学内で働きながら学びたい学生を支援する「学生支援ワークステディ制度」も設置されています。



詳細は商学部ウェブサイトへ >



02

広範な分野を網羅した最新のカリキュラム

学費は安いですが、商学部(昼間部)に設置されているほとんどの授業科目が第二部でも履修できるようになっています。また、2021年度からカリキュラム改正を行って少人数のゼミナール教育を充実させ、リーダーシップやプレゼンテーション能力の修得の強化を図っています。



03

時間を効率的・効果的に活用

授業時間は原則として月曜～金曜の夜間(1限:18時～19時30分 2限:19時40分～21時10分)に行われるため、平日の昼や土日・祝日を有効に活用して、特別な学修や資格試験へのチャレンジ、インターンシップへの参加を行うことも可能です。商学部(昼間部)の講義を履修することもできます(40単位まで)。



04

ハイレベルな資格取得やクリエイティブな能力の修得に特化したプログラム

特定分野についてより深く学修し、資格取得や能力向上に導く下記のプログラムを履修することも可能です(ただし、履修するためには選考に合格する必要があります)。

- 会計専門職プログラム
- クリエイティブ・マネジメント・プログラム
- マーケティングプログラム(令和8年度入学生から受講可能)
- 海外交流ゼミナール
- 高校商業・情報科教員育成プログラム
(第二部では5つの教員免許の取得が可能)



05

社会人(学生)との交流の場がある

社会人の方と一緒に学習する場があり、多様な学びがある。これまでも福岡市内の会社の社長さんも学生と一緒に学んでいました。



社会人コース履修制度

仕事と勉強を両立しやすい環境で
ビジネス・マネジメントを学び
キャリアアップを目指す。

商学部第二部では、会社員、公務員、中間管理職、経営者、熟年層等の社会人を対象に、1年間の履修期間でビジネス・マネジメントを体系的に学べる「社会人コース履修制度」を開発しています。学習の成果は試験等によって評価され、合格者には大学の単位が認定されます。

本コースの講義は、社会人コース履修生だけを対象にしたものではなく、商学部第二部学生向けに設置されている科目を、学生と共に受講する形式をとっています。

コース修了者には、学校教育法第105条に基づく履修証明書(社会人向けコース修了証)を授与します。



ビジネス・マネジメント基礎コース

詳細はこちら >



幅広いビジネス関係の専門科目を自由に組み合わせて学ぶ

企業経営に関する科目を中心に、会計学、情報、商学(金融・保険、交通、流通・マーケティング)、グローバル経済等について体系的に幅広く学修する機会を求める社会人のために入門科目、初級科目、中級科目とステップアップしながら知識を習得できるコースとして設定しています。商学部第二部で開講されている専門科目の大部分から選択して履修することができます。そして、各自の多種多様な問題意識に合わせて、例えば、経営と会計学を中心に、また流通・マーケティングと金融・保険を中心に、といったように特定の分野に焦点を当てて履修することもできます。本コースは1年間の履修を基本としていますが、学び方によって、今回は入門と初級の科目群に挑戦、次回は中級科目に挑戦といったように受講する科目を決めることもできます。ただし、ゼミナール科目は履修することができません。

2026年度募集概要

募集人員 ビジネス・マネジメント基礎コース:30人程度

出願資格 次の①、②いずれかに該当し、かつ2026年3月31日現在で満21歳以上であること

- ① 高等学校を卒業した者
- ② 高等学校卒業と同等以上の学力があると認められた者

選考方法 書類選考および面接・小論文
(小論文は、地域ビジネスデザインコースのみ)

※2026年度は地域ビジネスデザインコースの募集はありません。

修了年限 1年

授業期間 2026年4月～7月
2026年9月～2027年1月

授業日と時間 授業期間中の月～金
1限目(18:00～19:30)
2限目(19:40～21:10)

問い合わせ先 福岡大学 教務二課
(商学部第二部担当)
☎ 092-871-6631(代表)(内線:2547)



会計専門職プログラム

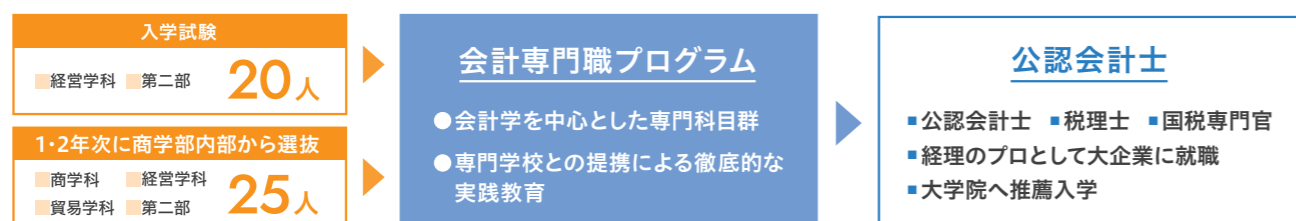
Accounting Profession Program

在学中に公認会計士、税理士などの資格試験合格を目指す 福岡大学独自の会計プロフェッショナル養成プログラム。

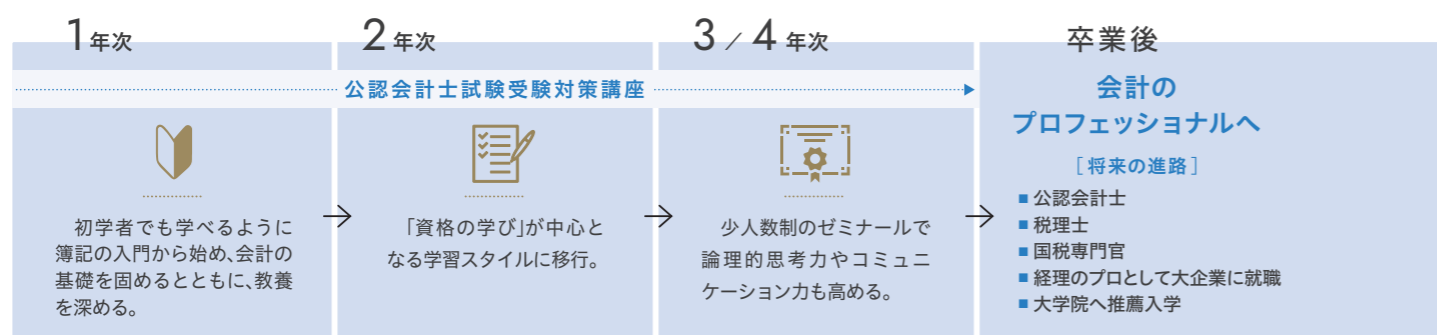
会計・財務関連業務の多様化やグローバル化に伴い、社会からは、高度な専門能力をもった会計専門家が求められています。この社会的ニーズに応えるために商学部および商学部第二部に設置されている「会計専門職プログラム」は、在学中に公認会計士・税理士などのハイレベルな資格試験に合格することを目指すプログラムです。過去5年間で24人が公認会計士試験に合格するなど、大きな実績を挙げています。

最大の特長は、公認会計士試験合格実績第1位の専門学校TACとの提携による公認会計士試験受験対策講座を無料で受講できること。ダブル・スクールの費用負担がありません。その他にも、本プログラム生のみを対象とした基礎ゼミナールなど、合格をアシストする仕組みが整えられています。このようなフル・サポート体制で難関資格試験合格を目指すのは、全国でも本学の会計専門職プログラムだけです。

商学部伝統の会計学専門科目群と少人数のゼミナール教育。これに公認会計士試験受験対策講座を加えて理論と実践の両面から徹底的な会計教育を行い、「会計のプロフェッショナル」を育成します。



会計専門職プログラムでの4年間



公認会計士試験合格実績 ※試験年度別合格者(2026年3月31日現在) ※過去8年間

年度	短答式試験					論文式試験				
	2年次	3年次	4年次	卒業後	合計	2年次	3年次	4年次	卒業後	合計
2018年度	5	1	2	4	12	1	1	2	6	10
2019年度	3		1	1	5		1	2	2	5
2020年度	1	2	3	1	7		2	1	3	6
2021年度		3		3	6		1		3	4
2022年度	2	2	1	3	8		1		3	4
2023年度	1	1		2	4		2		1	3
2024年度		2	1		3			1	2	3
2025年度	4*	3	1		8	1*	4		5	10
合計	16*	14	9	14	53	2*	12	6	25	45

*短答式:高校3年次合格者1名を含む
論文式:大学1年次合格者1名を含む

在学生の声



2年次生 吉本 菜白さん
(熊本県 熊本商業高校出身)

充実の試験対策講座で公認会計士合格を目指す。仕事のやりがいに触れ、将来像が具体的になった。

学習計画を立てながら体系的に学べる環境が整っています。1年次から無理なく学習のペースをつくることができ、公認会計士や税理士といった難関資格試験の合格を目指す上で、勉強を習慣化できたことは大きな支えになっています。会計のルールは頻繁に変わるため学習方法に不安がありましたが、専門学校と提携した試験対策講座により、基礎から段階的に学ぶことができている。実際に監査法人を見学する機会もあり、自分の将来像を具体的に描けました。

「特別ゼミナール」の授業では、実務経験者から日々の業務やキャリアの築き方、試験対策の工夫など、現場に基づいた話を聞くことができます。中でも「公認会計士は経営で人を救う仕事」という言葉が強く心に残っています。経営が困難になった企業を支え、人を助けることができる職業だと知り、資格取得がゴールではなく、その先にある社会での役割を意識するようになりました。個人や企業の会計を担う仕事への覚悟と責任感も、一層強まりました。

私の時間割(2年次後期)

	月	火	水	木	金
9:00					
10:40	会計学特論	マクロの生物科学		生涯スポーツ論	
13:00	日本国憲法	管理会計論		意思決定会計論	
14:40	インターメディアेट・イングリッシュII	心理学B	特別ゼミナールB	経営特別講義B	
16:20	2年専門ゼミナール	哲学B		インターメディアेट・イングリッシュII	

卒業生の声

充実した学習サポートで培った会計の知識が幅広いフィールドで活躍できる力となった。

会計専門職プログラムは、公認会計士試験の専門学校との提携による受験対策講座を受講できるため、ダブル・スクールの追加費用が不要な点が大きな魅力です。試験対策にとどまらず、将来を共に考えてくださる先生方の存在も、心強い支えになりました。志を同じくする仲間と目標に向かって学ぶ環境も、本プログラムならではの魅力を感じます。自主的に勉強会を企画したり、勉強に対するモチベーションの維持方法を考えたりする中で「学習方法に一つの解はなく、それぞれに最適がある」と気付けたことは、多角的な視点を養う大きなきっかけとなりました。

卒業後は公認会計士として財務・内部統制・ガバナンスなどの知識を深める中で、持続可能な社会の仕組みづくりに関心を持ち、現在は国際開発の分野で発展途上国を支援する仕事をしています。会計はどの組織においても不可欠なため、幅広いフィールドで挑戦できます。これまでに得た経験や知見を基に、さらに新たな学びを深めたいです。



杉本 真佑さん(2021年卒業)
合同会社デロイト トーマツ



会計専門職プログラムを理解する 5つのポイント

01

在学中に公認会計士試験への合格を目指す

在学中に公認会計士や税理士などの難関資格試験に合格し、会計・財務のスペシャリストとなることを目指します。会計・財務関連業務の多様化やグローバル化に対応するとともに、グローバル創業・雇用創出特区として発展しつつある福岡において、企業経営や地域経済社会の成長を支える人材を育成します。



02

特別な学費が一切不要

商学部・商学部第二部の学費のみで、トップクラスの公認会計士試験合格実績を誇る専門学校との提携により開講する公認会計士試験受験対策講座が受講可能です。ダブル・スクールの費用負担なく公認会計士を目指すことができます。一定の条件を満たせば、税理士試験や日商簿記検定試験1級を受験するための講座も受講することができます。



03

公認会計士試験合格教員が直接指導

会計専門職プログラムの学生のみが受講できる少人数のゼミナールが開講されます。このゼミナールにおいて、公認会計士試験に合格し受験指導のプロである専任教員が、受験の心構えや学修への取り組み方から具体的な専門的知識の提供まで指導を行い、難関資格試験合格へ導きます。



04

合格に導くフルサポート

学内に会計専門職プログラムの学生専用自習室が完備されている他、資格試験合格を単位認定するなど、大学生活と両立して難関資格試験受験に取り組むための仕組みが充実しています。公認会計士試験受験対策講座も、大学の定期試験などの行事を考慮して日程が組まれています。



05

頼もしい合格実績

これまで公認会計士試験の短答式試験に86人（うち在学中72人）、論文式試験に56人（うち在学中29人）が合格するなど、着実に合格実績を積み上げています（P.25参照）。



教育プログラム

実践的なプログラムやゼミナールで学生の成長をサポート。

商学部および商学部第二部では商学部での学びに加えて、学生の専門性の向上や可能性の拡充を目的に少人数の特別なプログラムやゼミナールを設置しています。

- 高校商業・情報科教員育成プログラム
- クリエイティブ・マネジメント・プログラム
- マーケティングプログラム
- 海外交流ゼミナール

Message | メッセージ

プログラムを通じて グローバルな分野で活躍する人材を育成



商学部長 長束 航 NAGATSUKA Wataru

商学部および商学部第二部では、「会計」分野だけではなく、「高校の商業科・情報科の教育」分野、「クリエイティブ産業のマネジメント」分野、「マーケティング」分野、「海外との交流」分野などの特定分野の能力を向上させるための少人数かつ実践的なプログラムやゼミナールを設置しています。これらは、本学部がこれまで培ってきた知見を活用した福岡大学商学部独自の革新的プログラムです。

高校商業・情報科教員育成プログラムでは、商業・情報分野の教員採用試験に合格するための専門的な知識と技能を身に付けることができます。クリエイティブ・マネジメント・プログラムでは、クリエイティブ産業におけるプロデュースやディレクションの能力を培います。マーケティングプログラムでは、データがわかるマーケターを

育成します。海外交流ゼミナールでは、海外の大学への訪問やそこの研修を通じてグローバルな視野を養うことができます。

これらには、各プログラムやゼミナールの選抜試験に合格すれば、各学科に所属したまま参加することができます（会計専門職プログラムも同様）。

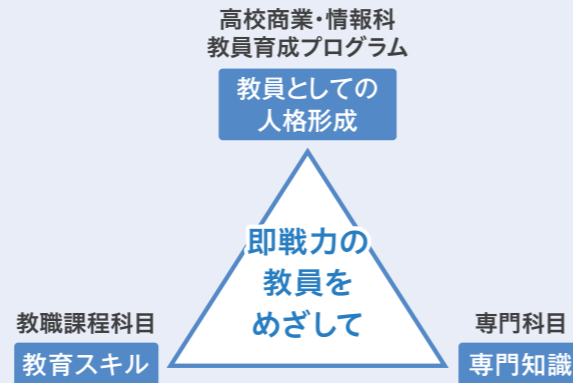
本学部はこうした革新的プログラムやゼミナールを通じて、皆さんの成長をサポートし、地域社会と国際社会に貢献できる人材を育成することを目指しています。

皆さんがこれらのプログラムやゼミナールに参加することで、社会で活躍できる人材に成長することを心から期待するとともに、皆さんの積極的な参加を願ってやみません。

高校商業・情報科教員育成プログラム



商学部(商学科・経営学科)および商学部第二部では、商業科と情報科の複数免許の取得が可能です。卒業と同時にマルチスキルを持った教員としてデビューしてみませんか。



プログラム受講生の声

在学生

学び合う教育の大切さを知って 教師観が変わった育成プログラム

田原 諒 さん 商学部商学科4年次生

高校商業・情報科教員育成プログラムに参加したことで、教育に対する考え方が大きく変わりました。これまでは「教えること」が教師の役割だと捉えていましたが、生徒一人一人の主体性を引き出し、共に学びを創っていくことを学び、その重要性を実感しました。
また、模擬授業や実践的な活動を通して、自分の課題と向き合いながら課題解決や改善を重ねる経験ができたことは、大きな成長につながりました。特に、生徒が「面白い」と感じる学びをどのように生み出すかを考え続けたことは、これから社会人生活を送る上で糧となりました。
今後は、本プログラムで得た学びを生かし、人と関わりながら価値を生み出す力を高めていきたいと考えています。



卒業生

福岡大学での経験と人脈を糧に 教員採用試験合格へ

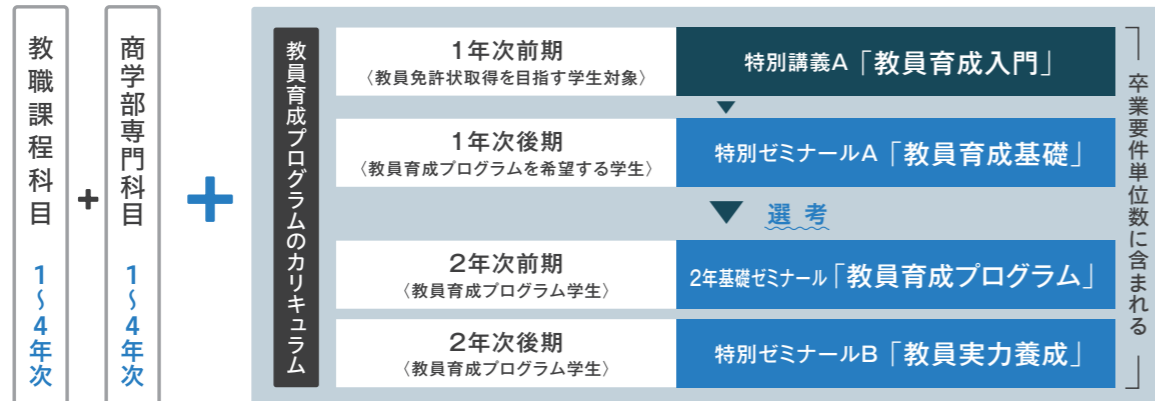
小林 未玖 さん 2024年度卒業 就職先:熊本県立球磨中央高等学校

私が商業科の教員を目指した理由は、高校時代に素敵な先生方と出会えたからです。そのおかげで「教員」という職業は、「教員の発言ひとつで生徒の人生をより良い方向に変えられる職業」だと考えるようになりました。
「私も教員になりたい」、その一心で福岡大学を受験しました。入学後は、高校時代に学んでいた簿記をはじめとする、さまざまな商業科目の面白さを分かりやすく伝えられる教員になりたいと思い、日々の勉強および商業・情報の教員免許取得に励みました。また、その過程では、私たちを応援しサポートしていただいた教授と同じ目標に向かって頑張る学友に出会えました。卒業後も教授や当時の学友だけでなく、熊本県の先生方にも応援・サポートをいただいたおかげで、2度目の挑戦で「令和8年度熊本県教員採用試験」に合格することができました。
大学生活をとおして、教員を志す人間としての土台を固めていただいたように思います。卒業後も、本学でのご縁が今に生きてると強く実感しています。今後はさらに、これまでのご縁を深めつつ、また新たな出会いに紡いでいけるよう日々を大切にしていきたいと思っています。



プログラム教育体系

既存の教職課程に加え、商業高校等での指導経験豊富な先生による指導など、プログラム生専用のカリキュラム(卒業要件単位数に含まれる)を準備しております。



商業教育と情報教育の二刀流プロ教師に!

学士(商学)

高等学校教諭
一種免許状
(商業・情報)



電子黒板を用いた教育実習風景



教員採用試験合格者から、合格までの道のり等を学びます

Q. プログラムに参加しようと思ったきっかけや理由は何でしたか?

- A. 「教師の仕事に興味があったことかな」
「私は高校生の時に教員を目指そうと決めてました」
「私はこのプログラムをみてしっかりとしたサポートがある、仲間もできると思ったから」
「私は父から勧められ、興味を持ったことがきっかけです」
「高校の先生に憧れて、教員を目指したいと思ったからです」
「商業の教員になる一番の近道だと思ったからです」

Q. プログラム学生として取り組んでみてどうでしたか?

- A. 「このプログラムでは先生と仲間と一緒に勉強できているので、充実していました」
「教員の大変さを目の当たりにし諦めかけたことがあったのですが、素敵な先生と仲間に出会い、楽しく学ぶことができました」
「このプログラムで採用試験までに何をしなければならぬのか、しっかり具体的に理解できたし、ゲストも来てくれて自分のモチベーションを上げることができました」
「他の人より履修する科目が多い中で、同じ目標を持つ友人に出会えて良かったと思います」
「九州各県の先生方と交流する「FuC教職ネットワーク」があり、教員のやりがいを直に聞く機会をいただけたことがとてもありがたかったです」

PICK UP!

FuC(福岡大学商学部)教職ネット

教員育成プログラムでは、本学部のOB・OGで実際に教育現場で活躍されている先生方との交流を定期的に行っています。このことによって、教育現場における実態を学び実践的指導力を強化するとともに、自信をもって「教員への道」を進んでもらえるよう工夫しています。教員になった後も先輩方があたたかく導いてくれます。

「FuC教職ネット」の実践例

講義
(商業高校における進路指導など)



教職の重要性とこれからの支える教員への期待が熱く語られた

グループワーク
(ICTを活用した授業展開など)



現職教員と学生が共通の教育課題について取り組むグループワーク

個別相談会
(先輩教員とのフリートーク)



教育現場で活躍される先輩方と1対1で語り合い「教職の使命と魅力」への理解を深めた

プロフェッショナルな教師を共に目指しましょう

高校教員としての経験から、師弟の絆や実学教育の魅力、教員のやりがいなどを伝えていきたいと思っています。次代のプロ教師を目指し共に頑張りましょう。





クリエイティブ・マネジメント・プログラム

クリエイティブの可能性を ひらくひとになる。

クリエイティブ・マネジメント・プログラム(通称MaCOP:まこっぷ)は、クリエイティブ産業(ファッション・食・映画・アニメ・音楽・ゲーム・伝統工芸・観光など)の経営者、プロデューサー、プロダクト・マネージャー(製品・サービスの企画者)を目指す人のための教育プログラムです。*クリエイティブ産業とは、個人やチームの創造性により、富の創造や雇用の創出が見込まれる産業の総称です。



対象 商学部商学科・経営学科・貿易学科・商学部第二部

選抜 クリエイティブ・マネジメント・プログラム学生選抜試験

MaCOPにおける産官学連携

クリエイティブ・マネジメント・プログラムでは自治体、企業との産官学連携を進めます。産業における課題や希求される人材像およびマネジメント方法についての意見交換を通じ、研究活動および教育活動の発展や改善を行います。最新の研究知見を教育プログラムに反映させることで将来の産業振興や地域振興に資する有意な人材の育成に取り組めます。



MaCOPの2つの特長

1 クリエイティブ産業に関する知識を蓄積	2 クリエイティブ産業の世代を超えた交流の場を提供
ゲーム制作におけるマネジメント研究 組織論、管理論	実務家の講演会 実務家と学生との交流
産業およびビジネスモデルの研究 マクロ的な分析、データ蓄積	学生同士の交流 デザイン系、工学系、マネジメント系
産学連携による課題解決型研究 action research	業界内交流 共同研究や講演会での交流
調査研究力の習得	

商学部なのになぜゲーム?

プログラムでは、「楽しい」×「ビジネス」の視点で新しいビジネスや価値を生み出すことを学んでいます。その一例がeスポーツをテーマにした研究および教育です。eスポーツを興行・競技としてのみ捉えるのではなく、「楽しいことをベースに、社会課題を解決していく」を念頭としたビジネス開発・マネタイズ(収益化)、さらには教育、医療・介護・地域課題の解決などへの応用を検討します。また、こうした個別の製品・サービスの連携によって生まれる新たな価値や経済圏(エコシステム)の構築を重要な研究・学習課題においています。



プログラム受講生の声

在学生 自分の「楽しい」を発見できる

松元 春樹さん 商学部経営学科3年次生



Q1. プログラムの魅力

MaCOPは、自分の「楽しい」を発見できるプログラムです。授業外活動や難しい内容というイメージがあるかもしれませんが、大学での勉強やアルバイトとの両立が可能で、クリエイティブ産業に興味があれば誰でもチャレンジできます。MaCOPは、ボードゲームの制作や販売をしたり、クリエイティブ産業のビジネスモデルを分析したり、クリエイティブ産業のことを本格的に学べるのが特徴です。初心者でも、アイデアの出し方やデザインの基礎から丁寧に教えてもらえるため安心して取り組みます。また、専門的な視点からの意見を受けながら、自分のアイデアを尊重してもらえ、ゲーム制作の楽しさを実感しながら成長できます。私自身、プロット作りを通じて物語を書く楽しさを知り、脚本家の指導のおかげで文章力や表現力の向上を実感しました。

Q2. 将来について

プログラムに入る前から映画制作に興味があり、映画鑑賞の趣味を仕事に変えられたらいいと感じていましたが、1年間のプログラム活動を通して将来の道は確固たるものになりました。興味があるとはいえ専門学校ではなく4年生大学を選択した自分にとっては、半ば夢物語のようにしか考えていなかったのですが、MaCOPで行った企業の経営戦略やビジネスモデルといったクリエイティブ産業に関する専門的な講義・演習を通してこの仕事への関心が強くなりました。さらには前述のような実践的な活動から身に付いた力が大きな自信へと変わったおかげで、将来はこのプログラムの学びを最大限に引き出せる、映画制作の道へと進むことを決意しました。

卒業生 自分の夢に直結する学びを深める

稲富 麟さん 2023年度卒業 就職先:株式会社トーセ



Q1. クリエイティブ・マネジメント・プログラムでの学びとキャリアについて

プログラムを通じて、ゲームの面白さ分析やボードゲームの企画・制作・販売、さらに業界で活躍されている方々の講演会への参加など、自分の夢に直結する学びを深めることができました。その中でも特に印象深かったのは、ボードゲーム制作の過程で「このゲームはどんな人が欲しくなるのだろうか」といったターゲット像を明確にするための議論でした。クリエイティブ産業に詳しい先生方からさまざまな角度で質問を投げかけていただく中で、自然とユーザーを意識したモノづくりの姿勢が身に付いたと感じています。また、ゲーム制作の経験があることで、チーム制作において自分がどのような力を発揮できるかを具体的に考えることができ、インターンシップでのチーム課題や採用面接の際にも自信を持ってアピールすることができました。実際の業務においても、MaCOPで得たチーム制作の経験や、ターゲット層と遊びの面白さに注力した企画の経験が役立っていると実感しています。

Q2. プログラムに参加しようと思ったきっかけ

私はオープンキャンパスでいただいた福岡大学商学部の学部案内パンフレットでMaCOPの情報を知り、このプログラムに興味を持ちました。もともとゲーム業界に関心があり、将来はゲーム関連の仕事に就きたいと考えていたため、私にとってぴったりのプログラムだと思い、そのまま商学部の経営学科を志望しました。また、少人数で約2年間同じ講義を受けられる点も、大学で気の合う学友を作れたことには魅力的に感じました。大学入学後は、MaCOPの受講条件を満たせるように、1年次のカリキュラムを慎重に組みました。

Q3. プログラムを目指そうとしている高校生へのメッセージ

少人数でのグループワークや実践的な授業を通じて「消費者側」と「生産者側」の視点を学ぶことで、商学部での学びをより深めることができる点、このプログラムの魅力の一つだと感じます。そのうえ、扱うテーマがクリエイティブ業界であるため、企画系の職種に関心がある人にとって、MaCOPでの講義は非常に魅力的な内容となっています。また、業界に詳しい先生方や、同じような進路を目指す先輩方との交流を通じて、業界の動向や求められるスキルについて知ることができ、就職活動にも大いに役立つと思います。ゲーム業界を目指す方はもちろん、広い意味で人々に新しいものを提供するクリエイティブ産業に興味がある方にも、ぜひ受講をお勧めします。

PICK UP!

『クリエイティブ・マネジメント演習(CM)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』

プログラムでは、2・3年次にプログラム生だけが受講できる「クリエイティブ・マネジメント演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を中心に、理論的に、実践的にクリエイティブ産業で必要な知識・技能・志向性を身につけます。

「ものづくり」と「研究・分析」

2年次生(CM演習Ⅰ・Ⅱ)では、ボードゲームの制作・販売、シナリオライティング、eスポーツの収益モデルの企画・実施などを行います。3年次生(CM演習Ⅲ・Ⅳ)では、クリエイティブ産業の市場やビジネス・モデルなどに関する調査・分析や就職活動を見据えたプログラム生のポートフォリオ作成などに取り組みます。



マーケティングプログラム



データがわかるマーケターを目指す。

マーケティングが社会に広く普及し、求められる人材は高度化しています。福岡大学商学部では、これまで商学科で行われてきたマーケティング教育を充実させ、マーケティングプログラムをスタートさせます。

特に、顧客や市場などに関するデータ分析、それらで得られるインサイトを生かし、マーケティングの知識や技術を活用できるマーケター(データがわかるマーケター)の育成を目的とします。

福岡大学商学部へ入学

商学科 ■ 経営学科 ■ 貿易学科 ■ 第二部

マーケティングプログラム(※)

※1年次で必要とされる単位数、その成績、面接等でマーケティングプログラムの学生を選抜し、2年次から開始されます。

対象 商学部商学科・経営学科・貿易学科・商学部第二部

選抜 マーケティングプログラム学生選抜試験

マーケティングプログラムが 2026年4月入学生からスタート

プログラム教育体系・カリキュラム

マーケティングUnit

企業などで活躍するマーケターとして必要な知識や技術を養います。「誰に」「何を」「どのように」提供しようとしているのかという観点から、マーケティング戦略の構築、実行プロセスを学びます。

マーケティングリサーチUnit

企業などでのマーケティングの現場の課題は何か、どんなデータや情報が必要かといった観点から、質的・量的なマーケティング・リサーチ、データ解析の知識と技術を学びます。

知識と技術の応用 ↑

↓ 知識と技術の深化

ゼミナールUnit

マーケティングとマーケティングリサーチの知識と技術を活用するための演習をします。

学会報告、各種コンペティションへの参加、企業などと連携した課題など

特別ゼミナールA(マーケティング人材養成(仮))特別ゼミナールB(データがわかるマーケター養成(仮))を中心に、学会報告、各種コンペティションへの参加、企業などと連携した課題などに取り組む予定です。

プログラムに先行する取り組み(1) : 各種コンペティションへの参加、学会報告

各種コンペティションへの参加

マーケティングプログラムに先行する2024年度の取り組みとして、株式会社岩田産業グループホールディングスによるSDGsコンテスト(2024年9月18日)へ商学科3年次生が参加しました。

商学科3年次生2グループが参加、企画提案を行い、「SDGsアイデアコンテスト」専門学校・大学生部門で最優秀賞・優秀賞を獲得しました。



学会報告

2025年3月には、マーケティング学会三都市カンファレンス2025(福岡会場(福岡大学2号館))へ商学科3年次生と4年次生が参加し、3グループ10人がそれぞれの研究成果について学会で報告しました。

プログラムに先行する取り組み(2) : 企業などと連携した課題

マーケティングプログラムに先行する取り組みとして、マーケティングに関する質的・量的データの解析とその知識・技術の修得があります。

企業などと連携した課題

商学部経営学科3年次生の内之倉さんは、データ可視化ツールTableau(Salesforce社)を活用しています。Tableauの認定試験「DATA Saber」に合格しました。その実績が認められ、Salesforce社公認「Tableau Ambassadors 2023」にも選出されました。

アイリスオーヤマ株式会社が主催する「データドリブンワークショップ」でもデータ解析結果を提案するなど、マーケティングデータの解析で活躍しています。



PICK UP!

プログラム修了生で想定される進路

マーケティングプログラムは、過去に商学部商学科を卒業した学生とその進路がモデルになって構築されています。モデルとなった卒業生達は、マーケティングの現場で企画や商品開発、マーケティングリサーチの業務を担ったり、データサイエンティストとしてデータ活用の現場で活躍しています。

企画

商品開発

マーケティング
リサーチャー

データ
サイエンティスト

海外交流ゼミナール



商学部独自のプログラムで世界を体感!

国際ビジネスにおいて活躍できるグローバル人材育成を目的とした商学部ならではの単年度の専門教育科目です。現地での体験を通して、世界への強い興味・関心を持ったグローバル人材を育成することを目的としています。事前研修の講義では、現地の社会経済事情などについて各分野の専門家から学びます。現地では提携先の大学寮で生活し、講義に参加します。コミュニケーションサービスやボランティアなどにも参加する現地の人々の生活に密着した3週間の研修です。



対象 商学部商学科・経営学科・貿易学科・商学部第二部

選抜 書類審査と面接

※福岡大学商学部の代表として派遣します。そのため、GPAやゼミへの参加意欲が重要な基準になります。



2023年度からの海外交流ゼミナールは、
アメリカ・オレゴン大学で現地の教授陣から
直接学ぶ短期研修を行っています。



日本にとって政治、経済、ビジネスの分野において最も重要な相手国の一つである米国。本ゼミナールでは、現地学生とともに寮において生活することでその文化や異文化との共生などを学びます。

▶ **福岡大学での事前講義を経てアメリカ・オレゴン大学へ!**

▶ **オレゴン大学英語教育学部教師陣による、週18時間におよぶ授業と演習!**

▶ **F-1ビザ※を取得!** ※アメリカの認定大学における正規授業及び語学研修を受ける際に必要なビザ
※2025年度は参加者保護のため、ESTAにて渡航



海外交流ゼミナールの特徴

国際的に活躍できる、異文化社会でのコミュニケーション能力を備えたグローバル人材を育成します。

1 丁寧な事前研修

前期を通して事前研修を行いますので、海外に不慣れた学生さんも安心して参加できます。

3 現地研修も正課の講義の一部

本ゼミナールで得た単位は商学部・商学部第二部の卒業単位に認定されます。

2 短期集中の現地研修

夏季休暇期間中に3週間程度の現地研修。そのため普段の講義履修にも支障ありません。

4 国際情勢などへの柔軟なリスク管理

これまでも国際情勢や現地の治安状況などに応じて柔軟に現地研修を実施。

商学部Q&A

■商学部・商学部第二部共通

一般編

Q 商学部(および商学部第二部)と経済学部の大きな違いを教えてください。

A どちらの学部も社会・経済の仕組みを学ぶことには変わりはありません。ただし、商学部では、「企業」にまつわる経済活動を中心に学ぶのに対して、経済学部では「社会」全体の経済活動を学ぶという表現もできます。「企業」とは、「会社」と置き換えることもできます。また、「企業」を学ぶためには、「社会」を理解する必要もあります。そこで、商学部では、経済全体についても学修しながら、経営、会計、マーケティング、金融、貿易などの各専門分野を深く学んでいくことになります。



Q 入学後に商学部のある学科から他の学科に移籍することや、商学部第二部(夜間部)から商学部(昼間部)に移籍することはできますか?

A 移籍できます(医学部 医学科・看護学科、薬学部を除く)。学部や学科を変更することを転部・転科といいます。商学部第二部から商学部(昼間部)に転部する学生は例年十人前後います。

Q 移籍方法や条件を教えてください。

A 希望する学科が提示する条件を満たした上で、選考試験に合格することが必要です。募集の詳細については、毎年12月上旬～中旬に説明会を開催しています。

Q 商学部および商学部第二部は、情報や商業科の高校の卒業生が多いまたは有利ですか?普通科出身は少ないですか?

A 商学部でも普通科出身者がほとんどを占めます。簿記や情報処理科目などは、情報科や商業科出身の学生が知識やスキルの面で有利かもしれませんが、ほとんどの科目は大学入学後に勉強を始めますので、普通科出身者にとって不利というわけではありません。

学修編

Q 少人数の授業にはどのようなものがありますか?

A ゼミナール(概ね20人以下)、外書講読などがあります。特にゼミナールは、商学部のコアとなる科目の一つで、少人数で同級生や先生と専門を学びます。多くの商学部生がいずれかのゼミに所属して学んでいます。

Q 商学部および商学部第二部では、携帯できる自分のパソコンがある方が良いですか?

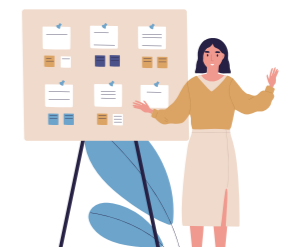
A 福岡大学ではBYOD [Bring Your Own Device:個人のスマホやタブレットやPCなどのデバイスの使用] の推進を掲げています。情報関連の科目では、個人のノートPCがあった方が学修上プラスになるでしょう。情報関連科目以外でもリモートやオンデマンドで行われる授業もありますので、なるべく快適に受講できるタブレットやノートPCなどがあった方が良いでしょう。

Q 情報(処理)系の勉強もできますか?どれくらいのレベルを授業で学べますか?

A 1年次から履修できる情報表現技術では情報のリテラシーを学びます。2年次以降の情報処理入門、情報処理基礎は、ExcelやAccessによるデータ処理からプログラミングの基礎まで学ぶことができます。応用編としてはマルチメディア概論や情報システム論があります。

Q 商学部の他の学科の授業を受講することはできますか?他の学部の授業を受けることはできますか?

A 商学部の自学科以外の科目も履修可能です。また、関連教育科目といって他の学部の授業であっても商学部の卒業単位として認められるものがあります。さらに、福岡市内の五大学連携で単位互換科目という他大学で履修できる科目も用意されています。



■商学部・商学部第二部共通

各種プログラム編

Q 入学後に会計専門職プログラムに入ることができますか？

A 入学後でも1年次生または2年次生の前期期間中に選抜試験があり、それに合格すれば会計専門職プログラム生になることができます。毎年20人ほどの学生が選抜試験を経て、会計専門職プログラム生になっています。

Q 会計専門職プログラムで公認会計士や税理士に合格しなかった卒業生は、どのような就職をしていますか？

A 卒業後も就職せずに引き続き公認会計士や税理士を目指して勉強を続ける卒業生もいますが、多くは会計専門職プログラムで学修した知識を生かして日本全国や九州地域の有力企業に就職しています。就職活動では、会計専門職プログラムで厳しい勉強に取り組んだ経験が自信となりますし、学生を採用する企業もその経験を高く評価してくださっているようです。

Q クリエイティブ・マネジメント・プログラムとは何ですか？どのような勉強をしますか？

A プログラムでは、クリエイティブ産業の企業経営に関することやゲーム制作に関する知識・技術を学びます。具体的には、市販されているゲームの分析、シナリオライティング、アナログゲームの制作・販売等を行っています。また、プログラムの実習室でデジタルゲームの制作を行っているプログラム生もいます(P.30参照)。

Q 教員育成プログラムとは何ですか？商学部各学科・商学部第二部の誰でも入ることができますか？

A 高校商業・情報科教員育成プログラムは、卒業までの4年間で確実に商業および情報の教員免許を取得するだけでなく、教員採用試験に合格して教壇に立てるように、1年次から教員の資質および仕事の内容をより詳細に学習するとともに、プログラムの学生同士が切磋琢磨して目標を達成するためのプログラムです。このプログラムは商業および情報の教員免許を取得できる商学科、経営学科および第二部商学科の学生が参加できるプログラムです(P.28参照)。

Q 各プログラムは、学費の他に費用がかかりますか？

A 学費以外は不要です。もしかかったとしてもゼミナールなどでも発生するような費用のみです。例えば、教科書代や宿泊費用などです。



■商学部

一般編

Q 商学部と経済学部で迷っています。どちらが就職に強いのですか？

A 学部によって就職に有利不利というのは生じないと思います。ただし、どういう業界(企業)にはどういう学部が向いている(強い)というはあるかもしれません。しかし、こうした情報はあくまで「傾向」であり、学部選びで一番大切なことは学びたい科目があるかどうかです。例えば、マーケティングに興味を持ってそれを一生懸命に勉強すれば、そこからマーケティングを生かした企業に入りたいと思うようになり、どんな企業があるかを主体的に自分で調べようとするようになります。そうした姿勢を持って人が希望の企業に就職できているようです。(福岡大学『大学案内 2027』P.040～SUPER INDEX「将来の進路」および「学びのキーワード」参照)。

Q 学科によって就職先の傾向は変わりますか？

A 商学部と経済学部の就職先の違いについての回答と同様です。例えば、貿易学科で英語を勉強しているうちに、英語に関心が高まり、語学を生かせる企業にはどのようなところがあるのかな、というように興味が広がっていきます。学部や学科が希望の就職先に導くのではなく、自分自身の主体的な意志により良い就職先に出会うと考えた方がいいと思います。

Q 商学部の主な就職先や職種・業種を教えてください。

A 商学部の就職先の例は以下をご参照ください(商学部第二部はP.21参照)。また『大学案内 2027』や公式ウェブサイトでも商学部に限らず、全学部のデータがご覧いただけます。



【就職先の例 2023年度～2025年度】

建設業 ● 積水ハウス(株)	● 九州旅客鉄道(株)(JR九州) ● 西日本鉄道(株) ● 日本通運(株)	● (株)西鉄エージェンシー ● EY税理士法人 ● PwC Japan有限責任監査法人 ● アクセンチュア(株) ● 有限責任監査法人トーマツ
製造業 ● TOPPAN(株) ● コカ・コーラボトラーズジャパン(株) ● (株)LIXIL ● 京セラ(株) ● (株)久原本家グループ本社 ● アイリスオーヤマ(株) ● (株)キーエンス ● (株)デンソー九州 ● TOTO(株)	卸売業、小売業 ● (株)PALTAC ● キヤノンマーケティングジャパン(株) ● リコージャパン(株) ● 西部ガスエネルギー(株) ● (株)日本アクセス ● (株)ニトリ	生活関連サービス業、娯楽業 ● アイ・ケイ・ケイ(株) ● 福岡ソフトバンクホークス(株) ● (株)JTBC
情報通信業 ● NTTドコモソリューションズ(株) ● Qsol(株) ● (株)ゼンリン ● (株)QTnet	金融業、保険業 ● (株)三井住友銀行 ● (株)みずほ銀行 ● (株)福岡銀行 ● (株)西日本シティ銀行 ● 大和証券(株) ● 第一生命保険(株) ● (独)中小企業基盤整備機構	公務(他に分類されるものを除く) ● 国家公務員一般職 ● 財務専門官 ● 国税専門官 ● 福岡県庁 ● 佐賀県庁 ● 福岡市役所 ● 北九州市役所 ● 福岡県警察本部 ● 福岡市消防局
運輸業、郵便業 ● 全日本空輸(株)(ANA) ● (株)近鉄エクスプレス	学術研究、専門・技術サービス業 ● (株)サイバーエージェント	など

学修編

Q 商学科、経営学科、貿易学科では、学ぶ内容が全く異なりますか？それぞれの学科でどのような知識や考え方を身に付けることができますか？

A **商学科** 商業という活動を、流通・マーケティング、金融、保険、交通などの分野について、商業史的背景や情報社会の現状も含めて、分野別にあるいは総合的に学ぶことができます。

経営学科 商業という活動は主として“企業”によって実行されます。本学科では、その企業をコントロールする「方法」を学びます。

貿易学科 商業の「グローバル化」に対応するために、英語による商取引のためのコミュニケーションや、世界各地域の経済事情を学びます。

Q 希望する先生のゼミナールに入ることができますのですか？

A ゼミナールには定員があります。希望するゼミナールに定員を超える希望者があった場合、必ずしも第一希望のところに入ることができないかもしれませんが、第二次募集、第三次募集も行われますので、いずれかに所属することは可能です。

Q 途中で別のゼミナールに変わることはできますか？

A 原則としてできません。2年次後期からの専門ゼミナールは、そのまま3年次の専門ゼミナール、4年次の論文ゼミナールへと持ち上がります。2年半、同じ先生の下、同じ仲間とともにゼミナール活動を行い、最終年次には卒業論文を書きます。

Q ゼミナールは入った方が良いですか？どのような活動をするのですか？

A ゼミナールの単位は必修ではありませんが、商学部のコア科目の一つとして位置付けられており、入ることを勧めています。活動はゼミナールによって異なります。ゼミナールで合宿旅行に行ったり、企業とコラボした活動を行ったり、商経ゼミナール連合部に加入して、論文やプレゼンテーションを作成して全国の大学とのゼミナール大会に出場したりとさまざまです。

Q ゼミナールや卒業論文は必修ですか？

A 昼間部のゼミナールや卒業論文は選択科目で必修ではありません。

■商学部第二部[夜間部]

一般編

Q 商学部(昼間部)ではなく商学部第二部を選択するメリットを教えてください。

A 働きながら学ぶなど、昼間の時間を有効活用できることです。また、学修内容は昼間と同等以上であるといってもよいにもかかわらず学費が約半分で経済的負担が軽いことです。

Q 商学部(昼間部)と比較して就職に不利でしょうか？

A 特に不利ということはありません。過去の就職データを見ても、商学部(昼間部)と内定先企業はほとんど同じであり、昼間部でない採用されない企業は無いといえます(P.21参照)。

Q 夜間部の授業は何時から何時までですか？商学部(昼間部)の授業を受けることはできますか？

A 第二部の授業は、午後6時から午後9時10分までの2時限です。ただし、卒業に必要な単位124のうち40単位(会計専門職プログラム生は60単位)までは、昼間部の授業を履修することができます。

Q 商学部(昼間部)と同じ授業が夜間にあるのですか？

A 一部の科目は第二部には設けられていませんが、昼間部の時間帯に履修して卒業単位とすることができます。

Q 夜間の授業だけでも4年間で卒業できますか？

A 第二部(夜間)の授業だけを履修しても4年間で卒業することができます。



Q 夜間にもゼミナールはありますか？卒業論文は必修ですか？

A 第二部にもゼミナールはあります。選択必修科目とされていますが、ゼミナールの中から必ず1科目選択しなければならないため、第二部ではゼミナールは実質的に必修科目となっています。希望すれば昼間部の卒業論文のゼミに参加することもできます(参加するためには、選考に通る必要があります)。

Q 商学部第二部だとクラブ活動はできませんか？

A 第二部の学生たちのためのクラブ・サークルがあります。夜2限(午後9時10分終了)後に活動します。また、時間さえ許せば、昼間部のクラブ・サークル等に所属して活動することもできます。

Q 社会人の学生は多いのですか？

A 社会人の学生は昔ほど多くはありません。ほとんどの学生は昼間部と同じ年代の学生です。

